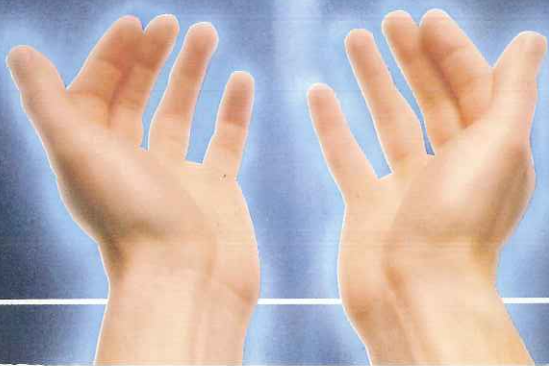




聖霊の賜物 を受ける

ビル・サブリティキー著





聖靈の賜物を受ける

*Receiving
the Gifts of the
Holy Spirit*

ビル・サブリティッキー著

BILL SUBRITZKY

Published by Faith Ministries for
Dove Ministries

P.O. Box 48036 Blockhouse Bay
Auckland, New Zealand

Revised English Edition © 1985 Dove Ministries Ltd.

Japanese Edition © 1989 Faith Ministries, Japan:

All rights reserved.

ISBN 4 915793 00 1

目 次

はしがき	i
まえがき	iii
第 1 章	信仰が要求される	1
第 2 章	聖霊の賜物と御霊の実を区別する	7
第 3 章	キリストの身体なる教会に 自分の立場を発見する	11
第 4 章	聖霊の賜物を受ける	17
第 5 章	神様の油注ぎ	21
第 6 章	愛	29
第 7 章	知恵の言葉	33
第 8 章	知識の言葉	39
第 9 章	信仰の賜物	51
第 10 章	いやしの賜物	59
第 11 章	奇跡	67
第 12 章	預言	73
第 13 章	霊を見分ける賜物	79
第 14 章	異言	87
第 15 章	異言の解き明かし	91
第 16 章	集会を指導する	95
第 17 章	グループの中で学ぶ	101
第 18 章	最後の実際的な洞察	105

はしがき

ビル・サブリティキー師は、いわゆるキリスト教会の用語で言うなら、信徒伝道者です。彼は大きな法律事務所の所長であり、又、ニュージーランドの最も大きな建設会社の創立者であり、取締役でもありました。しかし、彼は普通の信徒伝道者ではありません。事実、多くの教役者が全く知らない次元と権威を持って、働きをされています。

彼が非凡なのは、ただ聖公会の教会員として、信徒のあらゆる奉仕の分野において奉仕されているという事実だけではありません。むしろ、多くの人々が見失っている、信徒の祭司職を新約聖書の教義として発見し、この真理をある程度まで実行に移しているということなのです。

ビル・サブリティキー師の物語は、有能な教会の信徒が聖霊に満たされた人になった、と言うだけではありません。これはよみがえりのキリストが内住され、その人を通して聖霊が霊の賜物を与えられた人の物語です。本書には、自分の人生を革命的に変えた霊的発見を、人々に分かち与えようと、燃える心を持った人の重荷が記されています。

本書に含まれているメッセージは1981年にアメリカのペンシルバニア州、フィラデルフィアで行われたフルゴスベルビジネスメンズフェロシシップの世界大会で語られました。原稿は、多くの人々に深く感動を与えたスタイルとスピリットを保つために、最大限の努力を尽くして作成されました。

神様は地元のニュージーランド以外にも、フィリピン、シンガポール、カナダ、そしてアメリカにおいて、彼の働きの門戸を開かれました。彼が務めをするところではどこでも、普通の人々によって用いられ楽しむことが出来るように、神様からの美しい霊の賜物を分け与え、解放することが起こっています。

クリスチャンの共同体には本書が必要です。ある人は今日の教会をフットボールの球場に例え、疲れきり、絶対に休養が必要な働きすぎの牧師からなる22人の選手を、絶対に運動が必要な50000人の会衆が見物しているようなものだと、言いました。この「聖霊の賜物を受ける」は全ての聖霊に満たされたクリスチャンを、外野席から立ち上がらせ、神様が本来計画されている祭司と王の責任と特権を、彼らが確信し用いるために書かれました。

神学博士 ネルソン・メルビン

まえがき

私が1971年に聖霊のバプテスマを受けて以来、私は多くの人々が1コリント12章に記されている賜物（知恵の言葉、知識の言葉、信仰、いやしの賜物、奇跡を行う力、預言、霊を見分ける力、異言、異言を解き明かす力）を十分に用いていきたいという、大きな願いを持っていることを感じ続けて来ました。

神様がこれらの賜物を、徳を高めるためにキリストの身体に与えられたと、私はかたく信じています。特にこの終わりの時代にです。これらの賜物を用いている教会にはどこでも、生き生きとした新鮮な霊の息吹を感じます。

多くの信者のこのような飢え渴きを感じながら、私はどのようにして賜物を使い始めたかを説明するのに努めました。聖霊に導かれてできるだけ簡単な方法にしました。

本書を読み進むにつれて、神様が豊かにあなたを祝福し、さらにその祝福を深く理解させて下さるようにと祈っています。

1981年に初版が発行されて以来、私が他のクリスチャンに聖霊の賜物を用いるようにと励ますために、聖霊は私を更に深く導いて下さいました。

又、聖霊は私に或る賜物の性質について、更にはっきりと理解させて下さいました。それにもとづいて第5章の「神様の油注ぎ」を深め、第7章の「知恵の言葉」、第8章の「知識の言葉」、第12章の「預言」、第15章の「異言の解き明かし」の説明を更に明確にして加えていきました。これらに加えて、第17章の「グループでの学び」を新しく加えました。

第 1 章

信仰が要求される

特に60年代と70年代における世界中に起こった神様の聖霊の大きな注ぎは、いわゆる「カリスマ刷新運動」と呼ばれていますが、聖霊の賜物についてははっきりした復活の発火点となりました。1コリント12：8～10に記されている霊の賜物は、知恵の言葉、知識の言葉、信仰、いやし、奇跡を行う力、預言、霊を見分ける力、種々の異言、異言の解き明かしです。

私はキリストの身体に属する全ての信者が、もし神様を信じて求めるなら、聖霊の賜物を与えられて用いられるべきであると信じます。私はこれまで何度も会衆の前に立ち、知識の言葉によって祈ったり、解放と悪霊の追い出しのために祈ったり、色々の分野において信仰を働かせたりして来ました。そして、多くの人々がこの分野をもっと深く体験したいとの、切なる渇きを持っておられることを、私は霊の中で感じました。長年にわたり主は、私が学んだことは何でも他の人々に分け与え、これらの霊の領域に入るように励ますようにと、語られました。20年間の教会出席の後、私はイエス・キリストを個人的に救い主として受け入れました。それと同時に、聖霊のバプテスマをも受けました。その体験は、弁護士とビジネスマンとしての私の考えを全く変えてしまいました。聖書を開き初めてその真の意味を理解し始めると、私はとても霊的に飢え渇き、できるだけ早く聖霊の賜物の領域に進みたいと願いました。

その出発点と賜物の働きのための第一番でかつ重要なことはもち

2 聖霊の賜物を受ける

ろん、新生の体験であり、聖霊のバプテスマを受けることであると私は信じます。

私はいつも人々に、もし I コリント 12 章の賜物を願うならば、聖霊のバプテスマの体験をし、神様の全き力の中に働くことが出来るように整えられなければならない、と言います。

ルカの福音書においてよみがえられたイエス・キリストが弟子達に次のように言っています。

さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。

(ルカ 24 : 49)

又、使徒の働きにイエス様がよみがえられた後に、弟子達に次のように語られました。

しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そしてエルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、私の証人となります。

(使徒の働き 1 : 8)

すでに知っているように、この力はペンテコステの日に彼らに下りました。使徒の働きにそのことが記されています。

五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。又、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。する

と、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話でした。

(使徒の働き 2 : 1 ~ 4)

イエス・キリストに人生を明け渡し、主とし救い主として受け入れている人は誰でも、心から求めるならば、簡単にこの経験をすることができます。

私はこれまで、多くの人々の聖霊のバプテスマの体験のために、祈る特権を与えられました。私の体験からして、もし人々が正しく教えられ、心が主に向かっていけば、ほんの数パーセントの人々だけが、すぐには異言を話すことができないだけだということです。全ての恐れと偏見を捨て去り、私達は幼な子にならなければなりません。イエス様は次のように言われました。

あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、はいれません。

(マタイ 18 : 3)

聖霊のバプテスマを受け、異言を語りたいと願っている人に対して、英語やその他の言語であろうと、幼い子供達に両親が母国語を教える時、子供達はその音をまねて出すことを例えに話すのは、とても助けになるのに気付きました。私は普通、ヘブル語でとても親しい言葉で、父を意味する「アバ」という言葉から話すように勧めます。これは始めるにあたりとてもすばらしい言葉です。それは、神様を賛美する言葉であり、又、聞きなれない言葉でもあるからです。聖霊のバプテスマを授けられるイエス様に、聖霊のバプテスマをその人のために祈り、私は「アバ」という言葉から始めるように勧めます。音節が口から出ると、更に流暢に流れるように励まし

ます。

私達の反応は様々ですが、みんなこの体験をするように、愛と励ましが必要です。神様ご自身が、私達の心の中に信仰の種を植えて下さいます。しかし、神様は私達がそれを働かせるようにと願っています。私達がそうすることによって、神様は私達を祝福して下さいのです。

みことばを神様の言葉として完全に信じることは、絶対に必要です。私が救われ、聖霊のバプテスマを受ける前の法律家としての私にとっては、これはとても難しいことでした。キリストを中心とした教会生活をしていなかった時には、知性的な、心のこもっていない、みことばの信じ方をしていました。私が聖霊のバプテスマを受けた時、私に起こったすばらしいことの一つは、みことばへの信仰が頭から心に移ったことでした。これは、私のみことばへの理解を全く変えてしまいました。それから、私はみことばに絶対的な信仰を持つようになりました。

この信仰の次元にまで私を引き上げたのは、一体何だったのでしょか。それは聖書を神のみことばとして、完全に子供のように受け入れたということです。私は全く疑いも、疑問も恐れもなく、これは神のみことばであると確信したのです。

私が賜物を用い始めてから間もなく、このみことばに根差したしっかりした信仰の重要性について、私は強く注目するようになりました。悪霊に影響されている問題について、みことばを引用すると、悪霊は人々から叫びながら出ていくのです。悪霊があなたが本当にそのことを意味し、語ったことを信じているなら（ある状況においては、悪霊はあなたのフィーリングや、思いを感じ取ることが

できると、私は信じています。) 出て行きますが、あなたが命じる前にではありません。確信をもってみことばを語るなら、悪霊は叫び始めます。特に次のようなみことばです。

死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。

(黙示録 20 : 14)

私は又、彼らの最後は火の池であると言います。彼らは「いやだ、いやだ、そんなことなど聞きたくない。」と叫び始めます。

どのような霊の賜物を用いようと、神のみことばへの絶対的な信頼は欠かせません。もしあなたが主と共に歩み、神様から何かを得ていると信じていれば、神様は更に前に進むことができる信仰をも増し加えて下さいます。例えば、「イエス様の打ち傷によって私達はいやされた」という確信がなくては、いやしの賜物を用いることはできません。人々は賜物を軽率に用いようとしますから、決して深みまで入れません。

私が聖霊のバプテスマを受けて間もなくのことですが、自動車を運転中に、緊急な状況に直面しました。ガソリンがきれかかっていたのです。理屈から言えば、自動車を止めてガソリンを入れるはずですが、しかし、この新しい聖霊のバプテスマの体験によって神様の言葉に対する信仰が突然に与えられ、その時、これは神のみ心であると信じて、タンクが満タンになるようにと祈りました。

何十キロも坂道を運転したにもかかわらず、最後の数キロの間、針は「空」を示し続けていました。針には狂いはありませんでした。私が祈ったあと、驚いたことに針が上がり始めたのです。私の知性では驚きましたが、霊ではそうではありませんでした。主は私

に、その時しなければならなかった緊急な仕事をするために、十分なガソリンを与えて下さいました。それから先は、主のガソリンの供給が終わりました。そして車にガソリンを満タンにしなければならぬと私が気づくまでかなりの距離を旅行できるようにして下さいました。

この経験は、みことばを信頼することの重要性を教えてくれたと共に、いつまでも私の中に残っています。私は聖書の前表紙の裏に、みことばへの信仰と理解を、次のように記しています。

これは神のみことば
本来、超自然的で
永遠に存在し
その価値は評価しがたく
その壮大さは測りがたく
力を限りなく与え
その権威はすたれることなく
全ての者を引き付け
個人的な生活の指針となり
完全に靈感されており
これを読め
これを書け
これに根ざして祈れ
これを行い
これを伝えよ

これこそ、この14年間私がみことばを心の底から信じたあかしなのです。

第 2 章

聖霊の賜物と御霊の実を区別する

I コリント 12 : 8 ~ 10 に記されている聖霊の賜物と、ガラテヤ 5 : 22 ~ 23 に記されている御霊の實の違いを理解することは大切なことです。ガラテヤ書においては御霊の實は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。

私がまだ救われて間もない頃、聖霊の賜物をすばらしく用いることができる、いわゆる油注がれた神様の人々が、個人の生活においては望ましくないのを見て、私はとても驚きました。彼らに近づくとつれて、このような経験は若いクリスチャンの私をほとんど駄目にしてしまいそうでした。彼らの生活に大きな罪を見出したのです。それから私は聖書を深く学び発見したことは、神の賜物は悔い改めなしでも、与えられるということでした。これについては、ローマ書 11 : 29 に次のように記しています。

神の賜物と召命とは変わることがありません。（悔い改めることなく）

（ローマ 11 : 29）

このように神様が何かを与えられる場合には、完全に与え、それを取り戻すことはなさいません。しかし、私達は賜物を正しく用いないために聖霊の力を失い、自ら賜物を放棄し、神様から離れてしまうことがあります。

私はイエス様がマタイの福音書の中で語られた言葉の意味を、より深く理解することができるようになりました。

良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。わたしにむかって、「主よ、主よ。」と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者がはいるのです。その日には、大ぜいのものがわたしに言うでしょう、「主よ、主よ。私達はあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇跡をたくさん行ったではありませんか。」しかし、その時私は彼らにこう宣告します。「わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。」

(マタイ7：19～23)

このように、これらの人々は預言をし悪霊を追い出したとしても、ただ父の御心を行う人だけが天国に入ります。ですから、天国に入るのには、神のみことばに従順になり、彼の戒めに従うべきです。それにもまして、私達は神様が私達を愛して下さったように、互いに愛し合うという新しい戒めに従うべきです。

神様は私達が完全にならなければ賜物を下さらないのではありません。私達が信仰を持って神様に向かい、みことばを信じるなら聖霊の賜物を与えて下さいます。新約聖書に記されている最初の賜物は義の賜物です。私達が罪の中にも、この義の賜物を与えて下さいます。これは私達が真の悔い改めをもって神様に帰った時に与

えられる、救いの一部として受けるキリストの義なのです。神様はこの義の賜物を私達に与えて下さるのに、私達が潔く完全になるまでお持ちになりません。

同様に、聖霊の賜物も私達が完全になるまで待ちません。イエス様はマタイの福音書の中で次のように言われました。

求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。また、子が魚を下さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子供には良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良い物を下さらないことがありますでしょう。

(マタイ7:7~11)

聖霊の賜物と御霊の実の違いを理解することは、非常に大切です。ガラテヤ書に、

キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。

(ガラテヤ5:24)

御霊の実は聖霊に属します。そして、私達が主に近く歩むなら

ば、それらは私達の生活の中にはっきりと表れます。それら — 聖霊の賜物ではありません — は主の裁きの基準になります。

偶然、私は霊の潔めに関して一つの興味深いことに気付きました。悪霊を追い出すのにとっても役に立つ霊を見分ける賜物は、その人の聖さを要求します。もし罪があなたの人生のある部分を支配していてあなたが他の人から悪霊を追い出そうとすれば、悪魔は繰り返しあなたを責め、その結果あなたは役に立たない器になってしまいます。それらの特別の賜物が大いに用いられないその一つの理由は、いわゆる“兄弟達を訴える者”がその本性を表し始めるからです。もしあなたの中に罪があり、その同じ罪に根差している悪霊を他の人から追い出そうとすれば、自分のやっていることに確信をなくしてしまうでしょう。

注意して欲しいのですが、バランスを持つことは非常に大切です。ある人々は御霊の実に豊かであり、ある人々は聖霊の賜物に優れています。バランスが必要だと私は確信しています。神様はキリストの身体なる教会の徳を高め、励まし、慰め、立て上げるために聖霊の賜物を流したいと、願っています。ですから、聖霊の賜物は御霊の実が私達の生活の中で花開くとともに、私達の教会で用いられなければならないのです。

霊的な生活の現実的なるねりが賜物を用いて励まされることにより、新しい方法で地方教会の中に表れ始めます。

第3章

キリストの身体なる教会 に自分の立場を発見する

賜物を用いるための次の条件は、キリストの身体の中に自分の立場を発見することです。これはローマ書に非常に注意深く、ある原則に沿ってはっきりと記されています。パウロは

そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

(ローマ12:1)

もし私達が1コリント12章の、他の賜物を含め、神様の賜物によって働きたいと願うなら、第1のステップとして、私達の身体を生きた供え物として神様にささげることです。私達は身体を心と同様にささげなければなりません。それが、私達自身を神様にささげるといふことなのです。第2のステップは次のみことばに記されています。

この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

(ローマ12：2)

私達がイエス・キリストのもとに幼い子供のように来て、救い主として受け入れれば、私達は霊的な思いを受け始めます。

肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。

(ローマ8：6～7)

私達の生まれつきの思いは神の事を決して理解できません。パウロは生き生きとこれを説明しています。

生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。

(1コリント2：14)

私がまだ熱心なクリスチャンではなく、ただ教会に出席していた時、私は多くのクリスチャンの投票によって選ばれた人々のあるグループの司会をしていました。私の家でよく集まっていたが、私はその中の一人の男性の非常に落ち着いた態度にいつも強い印象

を受けました。彼は余り話しませんでした。一度話すと私達全員の注目を引く程でした。私は彼が神のことばを深く理解しているのを感じました。

ある夜集会が終わった後、彼は「ビル、君は新しく生まれ変わるまでは、決して聖書を理解できないよ。神様の事柄は霊的に理解されるべきで、新しく生まれるまでは聖書の真理の理解に欠けるよ。」と言いました。

私は彼と同じように聖書を読むことができると熱心に反論しましたが、心の深い所では自分の言っていることは間違っていると分かっていました。多くの場合聖書を開いても、私は意味を理解することができませんでした。小さい子供のようになり神様の前に自らを低くし、罪の赦しを求め、イエス様を私の主としてお招きした時、突然に私の思いは変えられ、神様の言葉が私に開かれたのです。

思いが変えられた後に次のみことばに気付きました。

．．．．．何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために

(ローマ12:2)

さて、次のステップです。これは最初良いものから始まり、さらに進んで受け入れられ、そして最後に完全になるという、上昇してゆく順序であることに注目して下さい。

神様の賜物を働かせ始めるには、私の心が一新される必要があり、そして何が良いことか、受け入れられ、完全になるとはどういうことか、神の御心とは何かを理解する必要があることが分かりま

した。神のみことばに忠実になることによってこのようになりました。

神様はそれぞれにある程度の信仰を与えて下さっています。

私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰のはかりに応じて、慎み深い考え方をしなさい。

(ローマ12:3)

だれにでも、ある程度の信仰が与えられています。私達がキリストの身体の中に自分の立場を見いだせば、信仰が成長します。

一つの身体には多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つの身体であり、ひとりひとり互いに器官なのです。

(ローマ12:4～5)

キリストの身体の中に自分の場所を発見することは、絶対に必要なことです。私達は孤立することはできません。キリストの身体の一部にならなければなりません。イエス・キリストが主と崇められ、礼拝されている教会に出席することは、神様の賜物を働かす最も基本的な条件です。もし、私達がそれぞれの地方のキリストにある信者の教会に属し、そのグループの權威の秩序に従えば、神様は私達を豊かに祝福して下さいます。私達は互いに励まし合わなけれ

ばなりません。このようにして、私達が励ましを受けることができるキリストの身体の一部として加わる必要があります。私が霊の賜物を用い始めた時、「私達はあなたがこの賜物をさらに用いるようにと励まします。」と地方教会の人々が言って下さり、とても励まされました。私はこのようにして聖霊の賜物を用い始めたのです。

神様の子供に対して悪魔が用いる武器の一つは高慢です。私達が神様の賜物で働き始めると心の中に誘惑が入り、私達の思いを欺き、私達が他の人よりも少し優れているかのように思わせます。このようにして、悪魔は私達と働きを攻撃します。私達の生まれつきの思いはこれを受け入れ、私達は神様に聞くよりも自分に聞くようになります。私達が属しているキリストの身体なる教会が、私達が神様以外の霊ではなく、聖霊の油注ぎの下で働いているかを見分けることができるのはとても必要なことです。

ですから、イエス様は次のように言われました。

だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。

(マタイ 23 : 12)

私達が賜物を用いる時、真の霊の識別力と愛がその賜物を見分けることができるようにキリストの身体なる教会の前に自らを低くしなければなりません。もし私達が地方の教会の権威に従うことができなければ、私達は賜物を誤って用い、霊的に実を結ばないという大きな危険に陥ることがあります。

最後のステップですが、

私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。勤めをする人であれば勤め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれをしなさい。

(ローマ12:6~8)

これらの必要条件によって私達は賜物を持つのです。

ですから、霊の賜物を持ちそれを正しく用いることは、あなたの人生にとって神のご計画に従順である最高の結果です。

第 4 章

聖霊の賜物を受ける

前の章において、キリストの身体につながることの必要性について強調いたしました。身体に属していますから、私達は聖書的な方法で、按手によって聖霊を受けることができます。

パウロはローマ人の手紙で、

私があなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでも、あなたがたに分けて、あなたがたを強くしたいからです。というよりもあなたがたの間において、あなたがたと私との互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。

(ローマ 1 : 11 ~ 12)

ここでパウロは、はっきりと聖霊の賜物を人々に与えたいと願い、又、聖霊の油注ぎによって、彼はそれができると信じていました。ですから、彼の若い弟子テモテに次のように書いているのは驚くことではありません。

それですから、私はあなたに注意したいのです。私の按手をもってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。

(Ⅱテモテ 1 : 6)

パウロが按手することによって、テモテが聖霊の賜物を受けたことは、はっきりしています。

又、次のようにも言っています。

長老たちによる按手を受けたとき、預言によって与えられた、あなたのうちにある聖霊の賜物を軽んじてはいけません。

(I テモテ 4 : 14)

パウロを含めて、長老達も共に集まって按手をし、その時に預言が与えられたのは明らかです。

パウロは又、次のように言っています。

私の子テモテよ、以前あなたについてなされた預言に従って、私はあなたにこの命令をゆだねます。それは、あなたがあの預言によって、信仰と正しい良心を保ち、勇敢に戦い抜くためです。

(I テモテ 1 : 18)

これは聖霊の賜物を受けるようにと、人々を励ますとてもすばらしい方法だということがわかりました。

長年にわたり、私はある教会に出席し、長老と共に彼ら自身の聖霊の賜物のために祈りました。最初は一人の長老のために他の長老と共に祈りました。もし私が主を待ち望むならば、主はその時、その人にどのような賜物を与えたいかを私に示して下さることがわか

りました。そして信仰によって、私は話しだすのです。私の妻のバットは預言の賜物を働かせることができ、それによって、それらの人々の信仰を立て上げることができます。毎年その教会に戻り、それらの賜物がさらに深められているのを見、長老達が自ら会衆に按手をしているのを見るのは、大きな特権です。

数年前のことですが、オーストラリアのメルボルンの集会でこれらのことについて話しをしていた時、私は数人の教職者に前に来ていただきました。私が最初の人のために祈り、按手し、聖霊が私の思いに与えて下さる賜物を話し、バットが預言をした後、私はすぐにその人に、隣の人に按手するように言いました。彼がそのようにすると、主が彼に与えようと望んでおられた賜物を、彼の中に与え始めました。それらのすべての言葉を私は主からのものとして、認めることができました。それから、その二人はそれぞれ、隣の人に按手をする、同じことが起こり、教職者が終わるまで続けました。しかし、全部の教職者が終わる前に神様の力は私達の上になり、多くの教職者が神様の力に触れられて倒れました。

祈る時、ふつう私は「主イエス様、この兄弟（姉妹）に、あなたが望んでおられる賜物を与えて下さい。」と祈ります。私達は神様を制限することはできません。又、祈っている時に私達の思いに与えられた賜物よりも、神様がその人に備えておられるよりよい賜物があるかも知れません。

このような方法で賜物を受けるために人々に按手をする、すばらしいことが起こっているのを見てきました。人々はその瞬間にい

やされ、公に異言を語り、解き明かしをし、預言をしました。ですから私はこの賜物を受ける聖書的な土台、いわゆる按手を覚えていてもらいたいのです。

私は神様がこの方法に制限されているとは信じませんが、あなたが属しているキリストの教会で、あなたが愛に根ざしているなら、長老達に霊の賜物のために按手をしてもらうのもよいでしょう。賜物がキリストの身体なる教会によって吟味されるため、これはとても大切なことです。人々は「兄弟（姉妹）、私はあなたに預言の賜物が与えられていると信じます。」と言い始めます。（それは霊を見分ける力か、信仰の賜物か、いやしの賜物かも分かりません）このような言葉をいただければ、あなたはイエス様であって愛して下さっている人々からキリストの教会を通して、励ましを受けることでしょう。

霊の賜物について私が学んだ多くのことは、イエス様の愛が現されている小さな祈禱会でした。後でもっと話しますがそのような時に、私は神様の声を聞き始めたのです。

第 5 章

神様の油注ぎ

I コリント 12 章に記されている賜物を最後に語る前に、神様の油注ぎについて語りしたいと思います。

あなたがたのばあいは、キリストから受けた注ぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教えを受ける必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、— その教えは真理であって偽りではありません。— また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。

(I ヨハネ 2 : 27)

この油注ぎは I ヨハネ 2 : 20 にも記されています。

あなたがたには聖なる方からの注ぎの油があるので、だれでも知識を持っています。

次のようにも言うことができます。

しかし、あなたがたは聖なる方からの油をいただいているので、全てのことを知っています。

ですから、私達の中には油注ぎがあることは、はっきりしています。それはどのようにして私達に与えられたのでしょうか。

油注ぎは私達の中で起る聖霊の働きの一部だということです。イエス様はヨハネの福音書 16 : 13 で、

しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。

聖霊は神様から聞いたことを私達に話すためにこの世に来られました。

旧約聖書には、王や預言者に油注ぎする場合は、没薬、香りの強い肉桂、菖蒲、桂枝そしてオリーブ油が含まれていると、はっきり記されています。

これは出エジプト記 30 : 23 ~ 30 にあります。

あなたは、最上の香料を取れ。液体の没薬 500 シェケル、かおりの強い肉桂をその半分 — 250 シェケル — 、におい菖蒲 250 シェケル、桂枝を聖所のシェケルで 500 シェケル、オリーブ油 1 ヒン。あなたはこれらをもって聖なる注ぎの油を、調合法にしたがって、混ぜ合わせの香油を作る。これが聖なるそそぎの油となる。この油を次のものに注ぐ。会見の天幕、あかしの箱、机とそのいろいろな器具、燭台とそのいろいろな器具、香の壇、全焼のいけにえのための祭壇とそのいろいろな器具、洗盤とその台。あなたがこれらを聖別するなら、それは、最も聖なるものとなる。これらに触れるものもすべて聖なるものとなる。あなたは、アロンとその子らに油をそそぎ、彼らを聖別して祭司として、わたしに仕えさせなければならない。

(出エジプト 30 : 23 ~ 30)

モーセは続いて教えられた通りにアロンの頭に油を注ぎ、彼を聖別した。すなわち彼を選び分けたのです。このように、レビ記には次のように記されています。

また、注ぎの油をアロンの頭にそそぎ、油をそそいでアロンを聖別した。

(レビ記 8 : 12)

このように旧約聖書から、注ぎの油の中には、上に記した成分を含んでおり預言者や祭司の頭に注がれたことがはっきりしています。又、王が即位する時にも、その油が注がれました。これはダビデ王の時にも、サウロ王の時にも同じでした。

このように詩篇の記者はこの経験を次のように表現しています。

それは頭の上にそそがれたとうい油のようだ。それはひげに、アロンのひげに流れて、その衣のえりにまで流れしたたる。それはまたシオンの山々におりる、ヘルモンの露にも似ている。主がそこに、とこしえのいのちの祝福を命じられたからである。

(詩篇 133 : 2~3)

この詩篇で、アロンの頭に注がれ、彼のひげに流れ下った油をはっきりと描くことができます。アロンの頭に注がれたこの油は暖かく、その油が彼の身体に広がっていくのを、彼は身体で感じたであろうことを容易に描くことができます。

この油からはその成分の香りが立ち上り、この香りは私達の大祭司なるイエス様の衣の香りとして表現されています。

あなたの着物はみな、没薬、アロエ、肉桂のかおりを放

ち、象牙のやかたから聞こえる緒琴は、あなたを喜ばせた。

(詩篇 45 : 8)

真の聖霊の油注ぎがある集会では、聖霊の香りを嗅ぐことができます。それははっきりと識別でき、とても良い香りであり、悪魔や悪霊のそれとは全く異なったものです。多くの人々は集会中にこの香りを嗅ぐと、主の臨在を現実に感じます。同時に多くの人々は油注ぎが下ると、彼らは直ちにいやされます。

新約聖書を開くと、信者は王であり祭司であると記されています。たとえば、

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださったかたのすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためです。

(1ペテロ 2 : 9)

ここに記されているように私達は祭司なのです。さらに、黙示録には次のように記されています。

また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。キリストに栄光と力とがとこしえにあるように。アーメン。

(黙示録 1 : 6)

このように信者は王として、祭司として記されており、神様は信者に油を注ぎ、ご自身の栄光のために聖別したいと願っておられる

のです。

パウロの手紙の中に、このことについてはっきり記されています。

私たちをあなたがたといっしょにキリストのうちに堅く保ち、私たちに油を注がれた方は神です。

(IIコリント1:21)

私が聖霊運動に入った時、私の家で祈禱会を始めました。数週間が経ち、集会が続くにつれて、他の教会から（ペンテコステの教会を含め）兄弟達が出席し始め、聖霊の賜物を用いることについて私達を助けてくれました。

私は聖公会に属しています。ニュージーランドの大部分の人々は聖公会に属していると公言しています。私はいつも36回（これは9ヶ月間毎週です）の集会に出席してくれた人に感謝します。彼は私がみことばを信じて人々のいやしのために祈っていた時、私に協力して下さいました。彼も集会に出席し、いやしのために祈りました。

私が祈っていると、彼は「ビル、聖霊の油注ぎを感じますか。」とよく私に聞いたのです。私は「いいえ、何も感じません。」と答えると、彼は「いや、聖霊はここにいます。私は彼の臨在を感じます。」と言うのです。毎週、このようなことが起こったのです。—しかし、私は聖霊の臨在を感じませんでした。しかし、神様があなたの心の中に信仰の霊を与えて下されば、それを信じ続けて下さい。その36回の集会のあいだ、私は神様の油注ぎを、信じ続けました。

そしてある夜、私達は年配の婦人と共に立っていましたが、彼は

私に、「聖霊の油注ぎを感じますか。」と聞きました。ちょうどその時、私は天が開いたのを感じ、神様から来るあの柔らかい油のような暖かい油注ぎが、私の上に向かって来るのを感じました。どのような状況にあらうと、顔と信仰と心をイエス様に向け、生まれつきの思いをささげた時から、私はこの油注ぎを知っています。私が聖霊のバプテスマを受けていても、神様の油注ぎを知ることを妨げていたのは、私の思いだったのです。

私達はいつでも、すぐに神様の油注ぎを受けるわけではありません。数年前のことですが長年にわたり、聖霊の働きにたずさわっている聖公会のチュー主教の招待を受けてシンガポールに行った時、彼はシンガポール大聖堂で、聖霊の油注ぎの経験に興味を示しました。私が12章を説明すると、彼は神様の霊の働きによってその場で簡単に油注ぎを受けました。そして、それ以来彼はその油注ぎの下で、力強い働きをしています。

これを読まれて、あなたも「私もその油注ぎについて知りたい。」と思われることでしょう。他の人々に起こった私が知っている2つの方法について説明をしましょう。不信仰と誤った神学は神様の力を妨げます。ある時私は神様の油注ぎを一度も感じたことがないと言ったある有名な説教者と奉仕をしていました。聖書の信頼性に疑問を持つような訓練を受けた結果、彼の思いが妨げられているのではないかと私は示唆しました。

非常に謙遜な人だったので、彼は私の勧めを受け入れ、思いを妨げている霊を放棄しました。イエスの御名でそのようにすると、神様の油注ぎが彼に下り、聖霊の力に倒されて彼はゆっくりと床に倒れました。それ以来彼は、油注ぎを現実に体験しています。

私達の心がイエス・キリストに向かっているにもかかわらず、過去の経験の結果を通して不信仰の霊は私達の生活に侵入しています。私達は受け継いできたことを、捨て去る必要があるかも知れません。ニュージーランドにはフリーメーソンと呼ばれる結社があります。もしある人の父親がその結社に入っていたか、又は彼自身が会員になっていれば、彼は靈的に束縛されているということを私は発見しました。その結社は聖書で禁じられているバアルやアシュタロテの霊を礼拝しています。本人がそれを自ら断ち切らない限り、しばしば靈的な盲目におちいり、神のみことばを理解し行動するのを妨げられます。これに関して、その本人の承諾を受け、悔い改めの後に、私が不信仰の霊に彼から離れるように命じると、すばらしいことが起こるのをよく見て来ました。

フィジー諸島で神学校の教授と共にセミナーを開いていた時、彼は聖霊に満たされ異言を語り始め、私に「ビル、私は今まで神様の霊の油注ぎを知りませんでした。どのようにして聖霊に倒されるか、どうしても理解できません。」と言いました。そこで、私がある人のために祈っている時、強い油注ぎがあるのを感じたので、この教授を呼び「油注ぎを感じますか。今、非常に強いです。」と言いました。

彼は「何も感じません。」と答えました。

私は「兄弟、あなたはこの油注ぎを感じなければなりません。全ての不信仰を放棄しなさい。」と言いました。

彼は「イエスの御名により、私は不信仰を放棄します。」と言いました。

私は続けて「確かに、兄弟、この油注ぎを感じるでしょう。」と言いましたが、何の反応もありませんでした。私はもう一度繰り返しましたが、何の答えもありません。

私は振り向くと、彼は仰向けになって聖霊に倒されていました。

しばらくして彼は大きなフィジーの女性のために、とても静かにそれまでの彼の方法で祈っていました。しかし今は、不信仰から解放されて自由になり、神様の霊が彼を通して働くにつれて、当然起こるべきことが起こり始めました。その大きなフィジーの女性の身体は揺れ始めました。この兄弟の頭は熱心な祈りを続けるうちにだんだん低くなり、私とその女性に手を伸ばす前に彼女は大木のように床に倒れました。（幸いにもそこは木の床でした）それ以来、私は彼の働きを通して、多くの人が聖霊に倒されているのを見ました。

もし、あなたがまだ神様の油注ぎを知らなくても、悪霊につかれているとは言いません。そのように理解しないで下さい。私が言っているのは、私達がイエス様に来る前にあった、成長過程と環境の結果として私達の信仰を妨げている何物かが、私達の思いに付着しているということです。もし私達が素直に悔い改め「イエス様、私は私の中にある全ての不信仰を捨てます。主よ。私を助けて下さい。」と言い、神様に私達をささげれば、神様の油注ぎは流れ始め神様の臨在を感じるようになります。

私達は他の人のために、信仰を持ってこの祈りをする必要があります。

第 6 章 愛

こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。

(1 コリント 13 : 13)

聖霊の賜物をさらに詳しく学ぶ前に、少しだけ愛の問題について語ることが大切だと思います。私達が話している愛とは アガペーの愛で、1 コリント 13 章にあり、神様から来るものであり、私達が神様に従順になることによつてのみ経験できます。

私はいつも 1 コリント 12 章の聖霊の賜物について、聖霊がパウロをどのように導いたかに深い興味があります。パウロは 14 章において教会で賜物をどのように用いるかを語る前に、13 章において聖霊の油注ぎの下で、愛について語っています。

このように、パウロは賜物を働かせるに際しても愛を中心にしています。病人のために祈る場合でも、愛が最初に表現されるべきだと私は信じています。たとえ信仰があり、希望があっても愛がなければ、私が祈っている人に神様は私を通して、十分に働くことができません。私はキリストの身体に属する器官であり、他の器官をも同様に扱わなければなりません。すなわち、その器官のために私の命を捨てることなのです。

私がアガペーの愛をイエス様を通して熱心に表わそうとしていることが、人々にわかると、神様のあわれみはそのような状況の下で流れ始めます。彼らは裁かれていないことを感じると、神様の霊は下り始め、劇的にいやしを行うことがあります。

この数年の間、神様は私がイエス・キリストにあって人々を愛していると言うことができるようにして下さいました。私の口を通してこれらの言葉を話し始め、自分の耳でも聞くと、私にも何か良いものをもたらします。それを聞くことによって、聞く人々に神様の臨在と力と油注ぎをもたらすことがわかりました。

他の全てが失敗に終わろうとしても — 愛だけは残ります。信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。

数年前、フルゴスベル・ビジネスマンの集会で、黒人のアメリカ海軍次官をしているジョニー・ジョンソンが愛について話したのを覚えています。彼は私がそれまで聞いたことのない方法で話しました。彼は神様の愛をにじみ出していました。

集会の後見ていると、彼は部屋から出ませんでした。彼は部屋に留まり朝早くまで病人のために祈り、話したことを自ら実行したのです。彼は私に愛を表現する必要について多くのことを教えてくれました。私達が実行すれば、聖霊は私達を通して働いて下さるので

イエス・キリストを礼拝するために集まる時、私達は心を開き神様の愛が私達を通して流れるようにしなければなりません。私達は互いにそれを表現することができるはずで、特に私達が奉仕を

し、仕えている人に対してです。私達の集会に出席すると神様の愛を感じ、身体から痛みがなくなったと、しばしば人々は言ってくれます。

全ての悪霊の力は、神様の愛による神様の力に従うと私は信じています。そして愛が集会で現われればいやしは行われ、人々は解放されます。ある男性が私の家で祈祷会が持たれていた時に入って来た時、彼はすぐに愛を感じたと語ってくれました。その時まで彼は信者ではありませんでしたが、家を出る時には心からイエス様を信じていました。

イエス様の愛を表現することを恐れてはいけません。最近私は大司教のところに行き、イエス・キリストにあって愛していると伝え、神様が私に与えて下さった働きを助けてほしいと言いました。彼はすぐに答え、援助をしてくれました。

私達はみんな愛を求めています。それを表現して自由になりましょう。聖霊の賜物は素晴らしいものです。それらはキリストの身体を立て上げるためにあります。そして御霊の実はさらに素晴らしいものです。しかし全てのものの中で一番偉大なものは、私達一人一人を通して表される愛であることを忘れないで下さい。

第 7 章 知恵の言葉

ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、

(1コリント12:8)

知恵の言葉とは、状況をいかに扱うかという神様よりの印象、考え、幻、又聖霊の直接聞こえる声であると私は信じています。

新約聖書にあらわれている最初の賜物は知恵の言葉です。その良い理由が確かにあります。聖霊の賜物によって働くためには、神様の知恵によって働かなければなりません。

箴言にはキリストと知恵は一つであり、同じであることがわかります。

知恵は、ちまたで大声で叫び、広場でその声をあげ、騒がしい町かどで叫び、町の門の入口で語りかけて言う。「わきまえない者たち。あなたがたは、いつまで、わきまえないことを好むのか。あざける者は、いつまで、あざけりを楽しみ、愚かな者は、いつまで、知識を憎むのか。わたしの叱責に心を留めるなら、今すぐ、あなたがたにわたしの霊を注ぎ、あなたがたにわたしのことばを知らせよう。

(箴言1:20~23)

又、1コリントには次の言葉が記されています。

キリストは神の力、神の知恵なのです。

(1コリント1:24)

キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとなられた。

(1コリント1:30)

私達は霊の賜物によって働きたいなら、キリストの中に知恵をもって働かなければなりません。例えば、知識の言葉を働かせ始めると、聖霊はしばしばその人について私達に示して下さいます。それを突然にその人に話しましょうか。それとも、聖霊が私達にそれを話す自由を与えてくれるまで待ちましょうか。

もし私にある人について知識の言葉が与えられ、それが姦淫をしている場合などは、神様が特別に語らない限り、私は「兄弟、あなたは姦淫を犯しています。」と立ち上がって、会衆の前で言いません。そのような方法には愛のひとかけらもありません。そうすれば、私は聖霊が示して下さいたことや、その人の人生に神様が成そうとしていることを、駄目にしてしまうでしょう。

同様なことが他の賜物についても言えます。たとえ、あなたの唇に多くの預言が与えられたとしても、それをいつ話すかがとても大切なことになります。私が神のみことばを語っている時に、ある人が立ち上がり預言をすれば、私は「すみません。あなたは秩序を乱しています。私は今、神のみことばを語っていますから、あなたは邪魔をしているのです。」と言います。私は聖霊は自分自身を邪魔するとは思いません。

多分あなたは私の言っていることに賛成できないかも知れませんが、これらのことは、私が発見したことです。知恵の賜物は私達がみな熱心に求めるべきであり、神様はそれを特別に、はっきりと与えて下さいます。神様はあなたに知恵の言葉を与えて下さいます。

あなたが神様を待ち望み、又ある人のために祈る時、その状況を扱う方法が強く思いに印象づけられることがあるでしょう。もしあなたが神のみ心になんて働いていれば、正義感に満ち、あるいは礼儀正しい良い言葉は、主からのものであることがはっきりするでしょう。私達はそれが本当に神のものだということを理解しないで知恵の言葉を働かせることに対して慎まねばなりません。

ですから知恵の言葉とは、その状況に応じて正しい時に、正しい言葉をいただく賜物です。カウンセリングをしている場合、この賜物は非常に役に立ちます。イエス様は知恵であり、私達はイエス様の知恵と愛の中で働くことを求めなければなりません。

知恵の言葉は、私達が聖霊に満たされていれば、いつでもはっきりと簡単に与えられます。時には聖霊はあなたに、ある人が非常に多くの問題と困難な状況にいることを示されることがあるでしょう。しかし、神様があなたにその状態を示されたからと言って、必ずしもあなたは彼にそれをその時に話す必要はありません。ですから、私は愛の必要を強調しているのです。あなたが神様の愛によって働いていれば、神様は正しい時に扉を開いて下さり、それをどのように扱うかをあなたに示して下さいます。

そのような状況において、表現するいくつかの方法があります。あなたは「あなたには祈りが必要です。いやしのために祈りが必要ですか。」と聞くことも良いでしょう。たぶん彼は自分には問題があると言うかも知れませんが、主はあなたにその問題は、彼が考えているよりもっと深刻だと示されるかも知れません。このような状況では知恵が必要です。又聖霊はあなたに身体のある部分に癌があると教えられるかも知れません。もし私が聖霊によってそのこと

を言うように示されれば、恐れを与えないように、「このような病気を自分が持っていることを知っているその方がここにおられます。」と言います。そうでないと、その集会に出席している全員が、自分が癌にかかっているのではないかと、恐れを感じ始めるかも知れないからです。

聖霊の賜物によって働き始めると、悪魔はやって来て、人々に恐れを持たせようとします。しかし、もしあなたがその状況の中でその人を安心させ、神様の愛によって働くなら、神様の力は十分に働くことが出来、聖霊は消されることはありません。ふつう神様は、個人的にもよく状況が理解できるように人々の注目を集められます。このようにしてその集会の信仰を高められます。他の時、他の状況で、— 知恵が導くままに — その本人が喜んで受け入れるならば、あなたはその人が持っている、全ての問題を自由に扱うことができるでしょう。最初の賜物として上げられている知恵は、神様の愛と非常に密接な関係があると私は信じています。これは効果があります。私達が知恵によって働き、知恵の言葉を待つと、神様は私達の心にその人に適切な言葉を、その時に与えて下さいます。しかし、私はこれを神様の愛によって働いている時にだけ行うことができます。

ですから人々がカウンセリングを受けに来た時、聖霊は状況を示して下さり、それにあった神様の知恵がしばしば与えられることによって、長いカウンセリングの時間を短くすることができます。

時には私達は気付かないうちに主の言葉を語っている時がありますが、他の人々は私達が知恵の賜物を働かせていることを見分ける時があります。

私は主からすばらしい知恵の言葉をいただく時があります。その言葉とは“悔い改め”です。多くの場合この世に深く関わり、心から一度も悔い改めたことのない人が、カウンセリングや助けを求めてくる時があります。彼らはそれまで一度も罪の悔い改めをしたことがなく、主はしばしばそのことを示される時があります。ここでも、神様の知恵は愛であり、彼らに神様の祝福を受けたいならば、聖霊に完全にささげられることを、示す必要があります。

他の状況においては、聖霊はあなたにその人のために、その状況にあった神様の言葉を生き生きとさせて下さいます。もしあなたが神様の言葉に浸っており、みことばを定期的に読んでいれば、あなたの思いに直ちに浮かんできます。神様には不可能なことはありません。神様はあなたが以前読んだみことばを、思い出すことができます。なくても思い出させて下さることができます。しかし、神様はみことばを私達が勤勉に読むことを望んでおられると信じます。

そこで知恵の言葉は、特別な状況のために正しく扱うようにと、神様がみことばからあなたに与えて下さる超自然的な賜物です。

イエス様が知恵の言葉を働かせたすばらしい实例は、ヨハネの福音書の中に記されています。律法学者やパリサイ人が姦淫の最中に捕まえられた婦人を、イエス様の所に連れてきて、このような女性の扱い方についてのモーセの律法を突きつけて、イエス様を試しました。イエス様にどのようにしたらよいかを尋ねました。

イエス様が地面に書いた言葉は、

あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。
(ヨハネ 8 : 6)

列王記 I 3 : 16 ~ 28 では二人の女性がソロモンの所にやって来て、同じ子供を自分の子供と主張した所で、神様のすばらしい知恵の賜物が記されています。ソロモンは刀を持ってこさせ、その子供を二つに切り裂き、その一つづつを女性に与えるように命じました。その子供の本当の母は子供の命を救うために、すぐに他の女性に子供を与えるように願ったのに対して、もう一人の女性は切り裂かれるように願い、簡単に本当の母を見分けることができました。

使徒ヤコブは知恵について、

あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。そう言う人は、主から何かをいただけるとってはなりません。

(ヤコブ 1 : 5 ~ 7)

もっとも簡単に知恵の言葉を表現するとすれば、状況をいかに扱うかという神様よりの印象、考え、幻、又聖霊の直接聞こえる声であると信じています。この賜物は非常に知識の言葉に近く、これは私達が自らを神様にささげると、聖霊によって思いの中に印象として、また一つの考えとして与えられます。どのような賜物を働かせるにもその土台はイエス・キリストにある信仰です。彼にあって私達がこの信仰で働くなら、聖霊は私達を通して働き、霊の賜物は明確に表されます。信仰をもってそれらの賜物を願い、揺れ動くことがないならば神様はいつも私達の願いに答えて下さいます。

第 8 章 知識の言葉

ほかの人には知識のことばが与えられ、

(1コリント12:8)

知識の言葉はある状況についての考え、思いの中に来る印象、幻、聖霊の直接聞こえる声であると信じています。おそらく、この賜物は悪霊を追い出し、いやしを行うのと同じように人々を驚かせ、励ますでしょう。しかし、それ以上に、この賜物は必要を感じている人々に回復を与える生きたチャンネルにもなります。

この世的には私は貪欲な人間でした。しかし感謝なことは、霊の世界に入ってから、私は神様のために貪欲になりました。私は天のお父様に「主よ、私は 全ての賜物が欲しいです。」と言いました。長年にわたり異なった次元において、私はこれら全ての賜物を用いたと信じています。これはキリストの身体に属する他の人々も、言ってくれました。

私は知識の言葉を自由に用いている人の働きの下で、霊の働きの世界に入りました。しかし、知識の言葉は、静かな長い戦いの結果

として私に与えられました。（私はあなたの経験も同じだとは言っていない。すでにこの賜物を用いておられる方もいらっしゃるでしょう。）それは、このように起こりました。私の家で持たれていた簡単な祈祷会で（あのペンテコステの兄弟を通して）私は用い始めました。彼は自由に賜物を用いており、彼の教会では、彼が聖霊のことを信じているようには信じていなかったために、迫害に会っていました。彼はそれにもかかわらず忠実にその教会に残ったことを、喜んで報告いたします。その教会は今では完全にカリスマの教会になりました。

私は知識の言葉を用いたいと彼に言ったので、彼は9ヶ月間私を助けてくれました。彼は集会の終わりごろ、30人、40人、50人にすばらしい知識の言葉を話すのです。

彼の隣に私が立つと、彼は「ビル兄弟、主から何か聞きましたか。」とよく聞かれ、私は「いいえ、何も。」とよく答えました。

このことが第1週、第2週、第3週、第4週と続き、35週も続きました。彼は「ビル兄弟、主から何か聞きましたか。」と聞かれ、私は「いいえ、何も。」と答えました。

私達には忍耐が必要であることを、神様は私達に示そうとされる時があると私は信じています。もちろん、ある人々は他の人達よりもっと自由に働くことができます。私の子供達は何の問題もなく、すぐに入っていました。

しかし私は忍耐をもって続けなければなりませんでした。36週間目の夜、続けていると油注ぎが私に下り、思いの中に何かが出来

付けられました。私の前に立っている人について私は話し始めました。するとすぐにその兄弟は「ビル兄弟、それは主からのものですよ。私も同じ言葉をいただきました。」と言いました。その印象を私の思いにいただいて以来、私はもっと期待するようになりました。私は期待しながら何週も待ち、ついにある夜、主の声を聞こえる声で聞きました。私は本当にヨハネのみことばを信じています。

．．．．聞くままを話し．．．．

(ヨハネ 16 : 13)

聖霊が神様から聞くままに、私達に語ります。もちろん、聖霊が語っておられるかどうかを確認しなければなりません。ですから、私達はキリストの身体なる教会に従うことが非常に大切です。

私が聖霊のバプテスマのために祈った人々の中で、適切な訓戒に心を開かなかった人々がありますが、矯正を受け入れず、欺きの霊から解放されることはありませんでした。彼らは出て行って神様の霊と欺きの霊の両方で働きます。そして私は今までそれほどまでの混乱を見たことはありません。彼らは聖霊をいただいています、欺きの霊に従っているのです。

このことが起こった人と私が最後に会った時、彼は「神様が語られたので、私は南アメリカに行き自動車を買って、カナダまで運転して行きます。」と言いました。彼は誰の忠告にも耳を傾けません。ですから、私達はキリストの身体なる教会に従わなければなりません。

主からの聞こえる声については、時には集会中にあり、完全に聞

こえます。集会で聖霊によって働いていると近くにいる人や、他の状況にいる人について語って下さる主の声を大変はっきりと聞いたことがあります。同じ集会で場所を変えると、何も聞こえません。このようにして私はどのように聖霊が消されるかを悟り始めました。それは多分、集会で不信仰のゆえだと思います。

ニュージーランドのダニジン市の教会の通路を歩いている時、約1メートルごとに空白を感じました。ある所に立ち、席を見渡しながら、聖霊が私にその列に座っている人のことについて語って下さるのを聞きます。そして個人的に呼ぶと私に与えられた言葉は、全く正しいのです。もう1メートル歩くと何も聞くことができず、又1メートル歩くと再び聖霊が語られるのです。

私は牧師に「この教会の建物は何かおかしいです。」と言い、私は間隔をおいて5つの玄関、又は骨組みを霊で見分け始めました。それらは建物の構造の中にあるように見えたが、私はただ、霊の目で見ただけです。

私はこのことを牧師に話しました。すると彼は「ビルその通りです。5つの柱があり、この建物はフリーメーソン結社によって建築されました。」と言いました。

私は「兄弟、フリーメーソン結社は悪魔的であることを知っているでしょう。この建物をもう一度、神様にささげなければなりませんよ。」と言いました。

「私達はそれをもう、やりました。」と彼は答えました。

それから彼は「百年前にフリーメーソンの人々はシャベルを肩に

担いで、この建物の土台を築くためにこの町の大通りを歩きました。」と説明してくれました。

はっきりしておきましょう。私はフリーメーソンの人々を愛していますが、フリーメーソン結社のオカルトの霊を嫌っています。私は牧師ともう一度信仰と一致をもって祈り、心に平安を受けましたが、その時には何も起こらないように見えました。その午後、私達は病人のために家で祈っていると、突然神様の霊が私に「その建物は解放されました。」と語られました。私はその通りになったと霊の中で感じました。

神様は私達の祈りに答えて下さいました。私は確認しようと建物の下におりました。その夜私は説教し、主の声を聞きながら働き始めました。思った通り私は教会の端から端まで神様の声を聞くことができました。もはや、私が動きまわっても、空白はありませんでした。その教会で私は神様の声をどこでも聞くことができました。神様の霊はもはや消されてはいませんでした。

私達が聖霊を信じることによって、その結果を与えられる実を神様に感謝します。

ニューヘブリデスで（今はバヌアツですが）私は司祭から病院に連れていかれ「病人のために祈って下さいませんか。」と言われました。私はその夜集会で話さなければなりませんでした。とても疲れており、病院に入るとどれだけ時間がかかるか分からなかったので、私は少しためらいました。私が病人のために祈れば、どこが悪いかを知るのとはそんなにむずかしいことではありません。その病室にいる人は全員癲病にかかっていました。そこで、私は普通の祈り

をし、去る準備を始めました。

すると、病院の院長が、私が知識の言葉を用いているのに気がつき、説明するように「あなたはどこが悪いかわかるのですね。」と言い、私を主な病室に連れて行きました。

病室に入ると彼は、「あの患者はどこが悪いのですか。」と聞きました。

これは本当にテストされているのと同じです。彼はベッドの後ろから記録を取り出し、それに目を通し、私の答えを待っているのです。神様の霊は私に次から次に、その患者の問題を4つも語って下さいました。驚いたことにその院長は非常に秩序正しい人で、病気を一つ一つチェックしました。彼は次のベッドに行きました。全く同じことが起こりました。次のベッド、次のベッドと続き、7番目のベッドでは、私は少し大胆になりました。そして、私達はその病院の30のベッド全部に行きました。この結果によって神様の栄光が現されて、その夜の集会にその院長が出席し、聖霊のバプテスマを受けました。

主の声は静かな小さな声です。私達が心を開き神様に信頼すれば、神様は私達の心の中に印象だけでも与えられます。私は小さな祈禱会でこの特別な賜物を用い始めました。— それは私の家ではなく、私の教会の日曜日の集会でした — ふつう9人か10人が出席していました。主は私に誰かの頭痛のことを示して下さいました。「誰か頭が痛いでしょう。」と私は言いました。それはあまり大きなことではありませんが、誰か頭が痛い人がいれば、私の信仰を大いに立て上げます。私は続けて、主は誰かの腎臓が悪いことを語ら

れたと信じて、「誰かが腎臓の病気を持っています。」と言いました。ある人々が「私です。」と言ったので私は祈りました。

それから聖霊は集会以外でも人々の状況について印象を与えられることを、学び始めました。例えば、ある人が誰かの事に関して集会に来たら、その物事に関しての正確な情報を聖霊によって与えられることを知りました。集会の中で誰もその問題を持っていないければ、その問題を持っている人に対して重荷を持っている人が出席しているということでした。神様の愛は非常に広く、集会に出席している人だけでなく、私達の 全て の問題に関心を持っておられることを理解し始めた時、多くの人々がいやされるのを見てきました。もし今あなたが家族のことについて心配していれば、神様はあなたが信じ、これを読んでいる間も神様は家族を助けておられることでしょう。神様は時間と空間に制限されてはいません。

最近、私がフィラデルフィアの集会で説教をしていた時、聖霊の賜物を持って働きたいと願っていた婦人の牧師が、その賜物を信じ始めました。集会中に人々がお互いに挨拶した時、彼女はすぐ後ろに座っていた私の義理の娘と話しました。（その婦人の牧師は、誰と話しているか知りませんでした。）彼女は「私はあなたのために知識の言葉をいただいていると信じています。」と言いました。生まれて初めて、彼女は主からの直接の言葉を話し、そしてそれはとても正確でした。その言葉は私の義理の娘の願いと深く関係していたのです。非常に正確だったので、2人は震えてしまいました。神様の祝福を心から信じることは何と大切なことでしょう。もしあなたが聖霊の賜物で働いている人に近く、又一緒に働いていれば、あなたもすぐに霊の賜物で働くことができるでしょう。私の家族は私

よりももっと早く賜物を受けました。それは彼らは私の働きの多くを、つぶさに見ていたからです。

私達は信仰によって働かなければなりません。全ての賜物は、それに根ざしているからです。集会に来る時は気持ちは沈んでいても、イエス様に祈ると彼の声を聞き始め、状況についての印象が思いの中に与えられ始めます。私が一晩でこの体験に入ったとは言ってはいません。賜物を練習することによって私の中に成長したのです。

集会中に神様の霊が働くとき神様の権威が臨み、その権威で働きを始めることができます。神様の声をあたかも、人が隣に立って絶えずあなたに話しかけるように、非常にはっきりと聞き始めます。ある集会で、主が次から次へと正確に、あらゆる特別な状況の中で私に語って下さいました。私はただ、主が私に語って下さることをできる限り謙遜に説明しただけでした。

ヘブル人への手紙のみことばをいつも覚えていることは大切です。

しかし、堅い食物はおとなの物であって経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。

(ヘブル5:14)

聖霊の賜物を用いている間、身体感覚を用いるのは大切です。私達はもっと深く賜物によって働くように、続けて信仰に成長するようにと心を開いていなければなりません。

私は賜物を用いる機会がある集会や状況に入ることによって、聖霊の賜物を活用しなければならないことを教えられました。私は知識の言葉についてこのようにしました。これは働きにはとても素晴らしい賜物だということが分かりました。もしあなたが町に入り、知識の言葉で祈っておれば、すぐにどんな会場も一杯にすることができます。それは確かにこの賜物を他の人々の間で働かせることにより、初代教会は力を現したのです。これは全ての信者が求めるに値する、賜物なのです。

イエス様が知識の言葉を用いられた例は、ヨハネの福音書にあります。

イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」女は答えて言った。「私には夫がありません。」イエスは言われた。「私には夫がないというのは、もっともです。あなたには夫が5人あったが、今あなたといっしょにいるのは、あなたの夫ではないからです。あなたが言ったことはほんとうです。」女は言った。「先生、あなたは預言者だと思います。」

(ヨハネ4：16～19)

ここでイエス様は御自身の超自然的な力と知恵を示すために、知識の言葉を用いられました。そして、これはこの女にとって素晴らしい証しとなり、イエス様がメシヤだと心から信じました。

人々は私に「なぜ神様は私達に他の人の考えや、はかりごとを読むのを許されているのですか。」と聞きます。彼らはこれが聖霊のものだとは信じることができないのです。しかし、聖書を見ると、

I コリント 12 章に記されている知識の言葉ということは、神様の言葉の中にあることなのです。ヘブル人への手紙には、

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

(ヘブル 4 : 12)

私達が聖霊の油注ぎの下で働く時、ある状況では知識の言葉は他の人の考えや、はかりごとを判別させると、はっきりと記されています。

知識の言葉は直接に問題の原因に導くので、カウンセリングの時には多くの時間を短くすることができます。あなたの思いを完全に空にし、イエス・キリストの知識と臨在を持つことが大切です。あなたが話すように、イエス様もあなたがカウンセリングをしている人について、あなたに語るすることができます。

また神様から何かを与えられたと信じれば、忍耐することも大切です。ある集会で聖霊は私にある人について語られ、私は正確に話すことができたのですが、誰も反応をしませんでした。私が忍耐し続け数分間も待つと、ついにある人が立ち上がり「私だと思えます。」と言い、そして事実その人だったのです。

集会の後多くの人々が来て、「恥ずかしくて集会中に出ていくのがいやでした。」と言うのです。しかし、忍耐して待つと神様の霊はその状況を解決して下さいます。信仰を持って下さい。信仰は私

達が働かせなければならない、基本的な賜物の一つです。

もし私がある人のために神様の言葉をいただいたと信じれば、その言葉を持ち続けると、実現することが分かります。

福音が語られているどのような集会に立っても、主を待ち望み始めると、その集会に出席している人々のことについて神様の声を聞きます。私は自分を誇っているではありません。私はただ、そのことが起こることを期待しているのです。賜物の中で働くならば、これは期待する信仰の一部です。ですから、あなたを通して賜物が働くように期待するようにお勧めします。その通りになると分かるでしょう。

しばしば私の家内が集会で話す時、私のところに来て、そのグループのために私から知識の言葉を前もって聞きます。私は彼女に与え、彼女はそれをノートに記します。そして集会でそれを話し、それらの人々に立っていただきます。聖霊は彼らがそこにいることを知っており、前もって知識の言葉を与えて下さっているのです。これはその集会の信仰を著しく引き上げます。

よく私は私が話す集会の前に主の前に静まると、集会に来る人々について正確な知識の言葉を与えて下さいます。私はその言葉を書き、集会中に呼びます。特に私の時間が限られている場合、神様は彼らが来ることをご存じであり、その心を準備して下さっていますので、彼らはすぐに前に出て来ます。

神様にあなたをささげなさい。そうすれば、あなたは絶えず神様からの声を聞くでしょう。ヨハネ 16 : 13 には、神様はただ朝の

1時から2時の間に語られるとは書いていません。いつも語られます。そして私達がささげればささげるほど、私達は神様の声を聞くことが容易になります。

しかし、覚えて下さい。この世には他の声もあります。ですから私達はキリストの身体なる教会に加わり、主からの私達への賜物が吟味され、確認されなければなりません。

繰り返し要約しますと、この賜物すなわち知識の言葉は、ある状況についての考え、思いの中に来る印象、幻、聖霊の直接聞こえる声であると信じています。

第 9 章 信仰の賜物

またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、

(1コリント12:9)

信仰は賜物です。それは神のみことばを完全に信じることによって与えられます。そのように信仰は聞くことから始まり、聞くことはキリストについてのみことばによるのです。(ローマ10:17)それは規則正しくみことばを読み、それを完全に信じることを通して成長します。もし信仰が成長するのを望むなら何の疑いももたず、完全に神のみことばを信じなければなりません。聖書を開く度に、私は主にレーマを求めます。すなわち、みことばが特別に私に生き生きとすることです。そして神様は必ずそうして下さいます。信仰は単純に、子供のように信じることから始まります。

信仰はフィーリングとは別にされなければなりません。信仰は私達の霊に触れ、一方フィーリングは魂の分野から出て来ます。—感情からです。何度も私は集会の前に重い気分で立ちましたが、それを横に置いてみことばに信仰を持ちました。信仰によって働きをすると神様の臨在を感じました。ある人々は信仰を得ようと、間違って神様の臨在を感じようとします。しかし、神様は私達に信仰に

よって働いてもらいたいと願っています。そして、あとでフィーリングが続きます。

ある人々は耳のいやしについて強い信仰を持っています。又、他の人は歯のいやしの信仰を持っています。これは単に、彼らがその分野を神様に求めたために、神様が祝福して下さった特別の信仰の領域です。

私には強い信仰の賜物があります。例えば、人々の背中の問題、喘息、糖尿病や同じような状態などで、多分人々の必要の分野以上でしょう。

信仰から信仰に進んでいくと、人々のいやしも更に大きく広がります。それは人々のために祈るすばらしい方法だと思います。信仰から信仰へと進むことです。実際的には、もしあなたが信仰の賜物によって働きたいなら、神様がすでにあなたに与えて下さっている信仰に積み重ねて下さい。そしてそれは簡単ないやしの分野から始めたらよいでしょう。信じ続けることによって、あなたはその分野で成長します。

私達は神様が与えて下さった信仰によって働くべきで、神様を制限すべきではありません。そして、あなたの信仰はあなたが祈っている人のためにも、賜物であることをいつも覚えて下さい。神のみことばを通して信仰の賜物が、人の心の中に植えつけられ、ちょうどその時、すばらしいいやしが始まり、又完成することがあります。ですから、決してその人の信仰の必要を見逃さないようにして下さい。

もし私達が本当に、

病人に手を置けば病人はいやされます。

(マルコ16:18)

とのみことばを信じるなら、彼らのいやしはすぐに始まります。何もその時起こっていないように見えても、これは信仰の行動です。敵である悪魔が攻撃する状況とは、私達が疲れている時です。そのような時、私達は信仰によって働くのが難しく感じられます。

信仰は心から神のみことばを信頼することに基づいており、私達がみことばを信じると、神様は豊かな信仰を注いで下さることも、もちろん覚えていて下さい。

まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、「動いて、海にはいれ。」と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとうりになると信じるなら、その通りになります。

(マルコ11:23)

もし私達が間違った態度や考えを思い浮かべれば、私達はそれらの態度や思いを持ちます。なぜなら、私達は自分で言ったことを自分で聞くからです。これこそ信仰を破壊するものです。そのかわりに、もし私達がどのような状況にあらうと神様を賛美すれば、私達の信仰は強められます。

何度も全てのことが反対の方向に向かっていった時、私は事務所に入りひざまずき、神様が全てを支配しておられることを信じて、神様を賛美しました。私がどのように感じようこの信仰が実践され

たとき、私が考えていた絶望的な状況が姿を消し、その問題のすばらしい答えを見出すのです。

神様の言葉への完全な、絶対的な信仰が必要であることを話しました。それは私達の全ての信仰の土台となります。子供のように完全に疑いをもたないで、聖書が神様の言葉であるという信仰です。多くの人の思いが邪魔されているため、みことばを読み、理解するのが難しい人がいます。信仰の最大の敵は不信仰です。もし私達が不信仰を続けるならば、不信仰の霊が入って来ます。私達が不信仰に甘んじる時、不信仰の思いが私達の心に宿り、私達が忘れていても住み続け、私達が信仰を働かせようとすると起き上がって来るのは、驚くべきことです。

あるマルコの福音書16章の引照にあった訳を読んだことがあります。それは、16章の後半は原典には含まれていないと記していました。これは私の思いの中にいやしや悪霊の追い出しを、イエス様が本当に言われたのかとの疑いを持ちましたが、それらの節が原典にあるとなかろうと、使徒行伝にはペンテコステの後にこれらのことが起こっているのを読みました。しかし、その思いはまだ私の中に残っており、表面に時々出て来ました。

次に私は4200の新約聖書の写本が存在することが分かりました。少なくとも680はマルコの福音書を含んでおり、その中の二つだけに16章の後半が存在しないだけでした。3種類のラテン語の翻訳のなかで、全部を合わせて8000部が残っており — そして、その全部に疑問を持った節が含まれています。ゴシック訳、エジプト訳、アメリカ訳はこれらの節全部を含んでいます。

四世紀前まではこれらの節に対する疑問は起こっておらず、一番古い二つの訳の一つにはそこは空白になっています。明らかにそれらの節のみことばのためでした。又、他の写本では記されていないみことばは創世記1～46章、詩篇105～137篇、ヘブル9：14と13：25、二つのテモテの手紙、テトス、ピレモン、そして黙示録です。

もちろん、これらの事実を読んで非常に慰めを受けました。それにもかかわらず、引照に記されていた信仰を制限する記事を読むことによって持つようになった考えを消し去るのに大変な努力が必要でした。

同様に、私達が信仰によって働こうとすれば、周囲のいろいろな要素が押し入って来ます。私達の教育や、特別の訓練や、人に寄り頼むことなどです。例えば、医者容易に神様のいやしの力を信じますが、看護婦はあまりにも医者技術に頼り、しばしば神のみことばに信頼することが困難な時があるのを私は知りました。

このような理由から、私はどのような不信仰の霊をも捨て去ることを勧めます。もし本人がオカルトに、又両親がオカルトに関わっていたなら、この霊は特別に強いです。世代から世代を通してその悪の霊が伝わり、その人の思いをくらますことがあります。

聖書を読み、理解するのが難しいとか、又、聖書を読もうとすと覆いがかかってくるようだという人がいますが、私はそれらは彼らがオカルトに関わっていたという証拠であると考え、彼らは解放が必要です。

信仰は注意して育てなければならない、繊細なバランスのとれた、やさしい植物のようなものです。もし私達が完全に生まれつきの思いに頼っていれば、私達は信仰を働かすことはできません。私達は霊の次元を理解しなければなりません。パウロが記したように、

私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。

(II コリント 4 : 18)

私達は、周りの霊的な次元を理解しなければなりません。— 2つの王国、すなわち、神様の王国と悪魔の王国です。私達は小さな子供の素直さで神のみことばを受け入れる時によってのみ、霊的な理解を持つことができます。

これらの全ての理由で、もし私達が信仰によって働こうと思うならば、神がみことばを通して与えて下さった信仰を育てなければなりません。私達はみことばを完全に信じ、そのまま受け入れなければなりません。

私は決してみことばに疑問を持ちません。もし私が理解できなければ、ただ信じます。時が来ると、聖霊ははっきりとその節や聖句の意味を私に示して下さいます。私達の生来の思いでは、神のみことばは時には矛盾するかのようには思えますが、霊によって働く時に、神様の言葉には一つも矛盾がないことがはっきりと分かります。神様が与えて下さった霊の奥義を、私達の生来の思いで把握しようとする失敗が、私達のみことばを理解する妨げなのです。

このように神様は私達に信仰の賜物を与えて下さっており、私達は何の疑問も議論もせず、それを受けとるべきのです。私達がそれを働かせ続ければ、神様のすばらしい油注ぎを感じるようになります。

いつも私をととても励ましてくれるみことばは、マタイ伝にあるイエス様が言われた、

わたしには天においても、地においても、いっさいの權威
が与えられています。

(マタイ 28 : 18)

この「力」という言葉の意味は「權威」です。(注：英訳聖書では權威を力と訳しています。)

それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子
としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテ
スマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたす
べてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わた
しは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいま
す。

(マタイ 28 : 19 ~ 20)

イエス様が私達に權威を与えて下さったように、私達はイエスの御名により、信仰を持っていやしや解放を命じることができます。しかし、それは私達に光に照らされ レーマ として与えられたみことばであり、それによって行動に移す信仰が与えられるのです。

もし私達が信仰によって働くとうすれば、神のみことばによって

訓練されなければなりません。もし私達が本当に成長したいならば、みことばを熱心に学び、それを毎日の最優先にしなければなりません。もし私達が朝早くそれをする事ができなければ、みことばを読むために決まった時間を作らなければなりません。

私達の霊は養われなければなりません。丁度、身体が食物で養われ、心が読んだり、聞いたり、見たりすることによって養われるのと同じです。私達がイエス様にささげているなら、私達の霊はただみことばから養われます。

みことばを読み、聖霊によって自らを神様にささげて、私達がこのように働きのために整えられれば、信仰の賜物は成長します。私達はみことばにそって祈り、みことばを信じ疑いません。そうすれば、その通りになります。

わたしのことばは火のようではないか。また、岩を砕く金槌のようではないか。 — 主の御告げ。 —

(エレミヤ 23 : 29)

第 10 章

いやしの賜物

ある人には・・・いやしの賜物が与えられ、

(1コリント12:9)

もしあなたがマルコ16章の「病人に手を置けば病人はいやされます。」とのみことばを本当に信じれば、いやしはすぐに始まります。

病人に手を置けば病人はいやされます。

(マルコ16:18)

私が祈った全ての人や按手した全ての人には、すぐにいやしが始まると信じています。いやしがその前に始まっていなければ、その時から始まります。例外はありません。病人に手を置き、いやしを信じることは聖書的ないやしの方法です。そして私はいやしはすぐに始まると信じています。

他の理由の中に、その人の罪や赦さない心がいやしを妨げていることもあります。多くの場合、聖霊は私にその人の中に赦さない心

があることを示して下さいました。神様の霊はあなたに触れ、いやしたいと切に願っていますが、かたくなさが神様の働きを止めているのです。

神様は全権を握っておられるので、どんな状況でも環境でも働かれます。私はいやしの条件や規則のリストを書くつもりはありませんが、赦し（愛を表現するために、基本的な前提となる必要）はいやしの基本的な条件です。

私は教会で人々に立ってもらい、赦し始めるようにと勧めました。又、赦さなければならない人々の名前を、口で言うようにとも言いました。牧師は私のところに来て、「兄弟、教会のある人々はあなたが3度も赦しの告白をさせたので、つまりいています。」と言いました。その同じ牧師が1年後に来て、教会の老年の男性が彼の息子を赦し始めるとすぐに、関節炎（彼は30年間かかっていた。）がいやされたことを報告してくれました。

私が知識の言葉をもっていやしと、いやしの信仰の祈りの働きを始めた時から、主は私の思いの中に、人々が赦しを行う必要があることを、印象付けて下さっていることに気付きました。彼らは両親を敬い、神様から受け入れられており、又愛する方にあって受け入れられていることを理解するようにとの印象でした。

それは、神がその愛する方によって私たちに与えて下さった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。

（エペソ1：6）

人々が本当に神様から受け入れられていることを理解し始める

時、彼らは赦されまた赦さなければならぬのです。そうすることによって解放がやってきます。ですから病人のために祈るには、神のみことばに従うことが基本です。イザヤ59：1～2に根ざして不信仰や赦さない霊や罪がある時には、それはいやしの力を妨げることになると信じます。

他の罪もいやしを妨げます。白血病にかかっている14才の少女を知っています。医者はあきらめて、数時間しか生きられないと言いました。私は彼女のために祈りに行きました。私が部屋に入ると、彼女を囲んで、家族全員が集まっていました。そこに立っていると主が私に彼女の父について語り始めました。「この人は過去10年間、姦淫の罪を犯している。」と語ったのです。これには私は驚きました。

私は彼女のために祈り、そして外に出て、どのようにして主はいやしを行い、救うことができるかについて話し始めました。彼は「ビル、私は信じたいよ。しかし、私には問題があるのです。」と言いました。

私はすでに彼の問題を知っていることを話しませんでした。そのかわりに、「あなたの問題とは何ですか。」と聞きました。

彼は「異性を求めるのを止めることができないのです。」と言いました。

私はその少女にあれ以来会っていませんが、すばらしく良くなりました。彼女の父は部分的な悔い改めをしましたが、後で又以前の状態に戻って行きました。彼は「私はこのままの状態の方が良いの

です。」と言いました。私は彼に「あなたの子供のいやしは、このことに対するあなたの態度にかかっているのですよ。」と言いました。彼は自分の子供のためでも、それを止めようとはしませんでした。しかし、母親は信じ続け、その1年後に比較的良くなったその子供に会いました。しかし、私はそこには父親の罪と娘の病気の間には直接的な霊的な関係 — 全ての場合ではなく、この場合は — があると信じています。

（白血病にかかっている子供の父親が姦淫の罪を犯していた例は、この子が3人目でした。）いやしにおいては、身体にいやしの兆候が現れる前に、神様に感謝することを人々に教えることはとても大切なことです。これこそマルコの福音書で言っている信仰なのです。

だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。

（マルコ 11 : 24）

最初の段階では何も感じなくても、私はいつも人々にいやしを受けたことを信じるように励まします。1年か2年後に、私はその同じ場所に帰って行くと、多くの人々が最初の集会の後で、ある期間を経て完全にいやされていることに気がきました。

私が病人のために祈る時は、その人のそばに静かに立ち、思いをイエス様に集中すると、聖霊の油注ぎが下ってくるのを感じ始めます。主イエス様に完全に信頼し、できる限り謙遜になると、神様の力と愛が最も難しい状況の中でも働くのが分かります。

いやしのための信仰の賜物や、いやしの賜物を働かせるためには、完全に心をつにして、神様の言葉によって神様のしもべに与えられた権威を信じなければなりません。

蛇をもつかみ、たとひ毒を飲んででも決して害を受けず、また、病人に手を置けば病人はいやされます。

(マルコ16:18)

最近、私はほとんど耳が聞こえない80才の婦人のために祈ったことがあります。彼女は私に祈って下さいと手紙を書いてきたのです。私は彼女の牧師が共にいけば、喜んでそうしますと答えました。(彼女は教会に行っていると言いました。)彼女の牧師は私に電話をかけて、「もし、彼女のために祈って下さるならとても幸いです。」と言ってくれました。それにもかかわらず、もしいやされなければ、信仰を失ってしまうのではないかと心配していました。明らかに彼は神様の力をその状況の中に制限していたのです。

彼と私とその婦人の家に歩いていく時、私は彼に「神様には何も不可能なことはありません。」と話しました。彼はうなずきました。

彼女の家に入ると、75才の一部耳の聞こえない信者の友人が共にいました。彼女は補聴器を使っていたにもかかわらず、耳が非常に悪かったので、私が言っていることを彼女が理解できるように、私はゆっくりと、しかも大きな声で叫ばなければなりませんでした。最初から彼女はイエス様を愛しており、信仰を持っていることははっきりしていましたが、何も聞くことができないこともはっきりしていました。

主イエス様がいやし能力があり、彼女へのいやしの賜物について話した後、私は牧師に彼女に油を注ぐように言い、彼はその通りにしました。それから、私は彼女に按手をし祈ると、私は聖霊の臨在を感じました。

祈り終わると、私は彼女には何も話さず、75才の婦人の友人に注意を向けました。彼女は私達が祈り終わるとすぐに良くなりました。

それから私は再び80才の婦人に向きなおり、大声で叫ばなければならなかったことをうっかりして忘れており、普通の声で話しました。すると彼女ははっきりと聞いて、すぐに答えてくれました。私達の会話が長く続けば続く程、牧師は驚きました。神様は奇跡を瞬間的に行って下さったのです。そして、この婦人は普通の方法で聞くことができました。

病人にいやしを行う時、最も大切なことは神様の愛をも語ることです。もしあなたが病人の過去の罪とかその人の心の中のどんな事でも裁いていると感じれば、神様があなたを通して働かれる十分な神様の力から、身を引くことになるでしょう。

病人にいやしを行う時、彼らをありのまま受け入れることが大切です。彼らに神様から愛され、受け入れられていることを伝える必要があります。私達は皆、神様が私達を愛し受け入れて下さっていることを理解する必要があります。そうすれば、私達はもっと深い神様のいやしの愛と力を受けることができます。

特に間違った両親との関係を持っていたり、赦さない心を持って

いるとき、多くの人々が拒絶されていると思っているか、苦しんでいることが分かりました。彼らが両親を敬い、他の人々を救うように励まされ、神様の愛があなたから流れるならば、いやしの力と神様の油注ぎが彼らの上に下ります。

病人のために祈ることは単に、機械的なことではありません。それは愛の行為であり、祈っている人が全てをささげることをも意味します。もし私達が神様の愛の奉仕者であれば、私達は愛によって行動しなければなりません。

病人にキリストが永遠の生命の賜物と罪の赦しを与えただけではなく、彼をいやすためにも死んで下さったことを神様のことばから話してあげるのは良いことです。

キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

(1ペテロ2:24)

いやしのために祈る時、私は聖霊が私に力を下さるのを感じるまで主を待ち望みます。これは普通は油注ぎの形を通してきます。しかし、いつもそうではありません。私は心を神様の前に静め、全ての思いを神様に集中します。心から信じ、神様の約束を思いだし、すべての苦心心、赦さない心、拒絶感、恐れを捨てるように勧めた後、その人に神様の霊が働いて下さることを信じることができます。すでに記したように、すぐに身体にいやしが現れなくても、病人は神様が触れて下さったことを信じ、いやしのために神様を賛美し始めなければなりません。

いやしの働きには犠牲が伴います。しばしば、私達にとっては気分がのらないような病人に近づき祈らなければなりません。又、遠くまで旅行したり、人々が都合の悪い時間に家まで尋ねて来たり、夜遅く電話をかけてきたりします。これら全てには完全にささげきっているという意識と、愛と忍耐の御霊の実が要求されます。

病人のために祈る時、私達はヤコブの勧めを決して見過ごすことはできません。

あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。

(ヤコブ 5 : 14)

普通、病人のための祈りは、教会の長老達のグループの中でなされるのが最も好ましいことです。ですから、私はいつもその人に、教会の長老が祈ったかどうかを聞きます。私達はいつも信者にまず、彼らの牧師か長老に祈ってもらうように勧めるべきです。それでも、もし本人が願うならば、私は普通彼らの牧師か長老が、私が祈る時に出席できるかどうかを聞きます。

一方では、このような方法を通るのは実際的ではない状況も多くあります。時にはその人は教会に属していないし、又、緊急な事態で教会がかなり遠い場合があります。このようなあらゆる状況に備えて、全てのクリスチャンは病人に愛をもち、信仰をもって、神のみことばに従って奉仕をする必要があります。

第 1 1 章

奇 跡

ある人には奇跡を行う力、

(1コリント12:10)

奇跡の賜物はしばしば、瞬間的ないやしとして現れることがあります。イエス様がどのようにして王室の役人の息子をいやされたかを見ましょう。

この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞いて、イエスのところに行き、下って来て息子をいやして下さるようお願いした。息子が死にかかっていたからである。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じない。」その王室の役人はイエスに言った。「主よ。どうか私の子供が死なないうちに下って来てください。」イエスは彼に言われた。「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。」その人はイエスが言われた言葉を信じて、帰途についた。彼が下って行く途中、そのしもべたちが彼に出会っ

て、彼の息子が直ったことを告げた。そこで子供が良くなった時刻を彼らに尋ねると、「きのう、7時に熱がひきました。」と言った。それで父親は、イエスが「あなたの息子は直っている。」と言われた時刻と同じであることを知った。そして彼自身と彼の家の者がみな信じた。イエスはユダヤを去ってガリラヤにはいられてから、またこのことを第2のしるしとして行われたのである。

(ヨハネ4：47～54)

これはイエス様が行われた第2の奇跡(しるし)として記されています。このように瞬間的ないやしは、奇跡としてははっきりと記されています。

「私達が病人に按手して祈る時、いやしが始まる。」と私が言いましたが、私はこれを何一つ疑ってはいません。しかし、時には神様の霊が奇跡的に人々に働き、彼らの身体の中に神様の電気が脈打っているのが分かり、彼らは瞬間的にいやされます。ですから、私達は神様をどのような方法でも制限しません。それは神様が賜物を与えられるからです。

神様に奇跡を期待し、失望しないようにしましょう。もし私達が瞬間的な奇跡を見なければ、神のみことばでバランスを取りましょう。不信仰に戻って、神様はいやされないと言わないようにしましょう。

私達が病人に按手すれば、彼らはいやされることと、神様は奇跡の神であることを、いつも覚えていなければなりません。

又、イエス様が私達に語られた次の言葉を忘れないようにしましょう。

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行うわざを行い、またそれよりもさらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。

(ヨハネ14:12)

神様は時間や状況に制限されていません。自然の世界とは反対に、霊の世界においては、もし私達が心から信じ、その世界で働くならば奇跡は私達の手の届く範囲にあるのです。

もちろん、いつも私達は神のみことばに従い、私達の求めることがみことばに合っているかを確かめなければなりません。もし私達が神様と正しい関係を保ち、イエス様が私達を愛されたように、私達も互いに愛し合うようにとの命令に従っていれば、私達を通して神様の恵みが働く、強い基礎を持っていると信じています。次の言葉が与えられているのです。

何事でも神のみことばにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるといふこと、これこそ神に対する私たちの確信です。

(1ヨハネ5:14)

聖書にはっきりと書かれているので、一般的に神の御旨を知るのは簡単なことが分かりました。あらゆる意味で私達が繁栄することは神の御旨です。

あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

(Ⅱコリント8:9)

あらゆる意味で私達に健康を与えて下さるのは神の御旨であることが、はっきりしています。

愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。

(Ⅲヨハネ2)

そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

(Ⅰペテロ2:24)

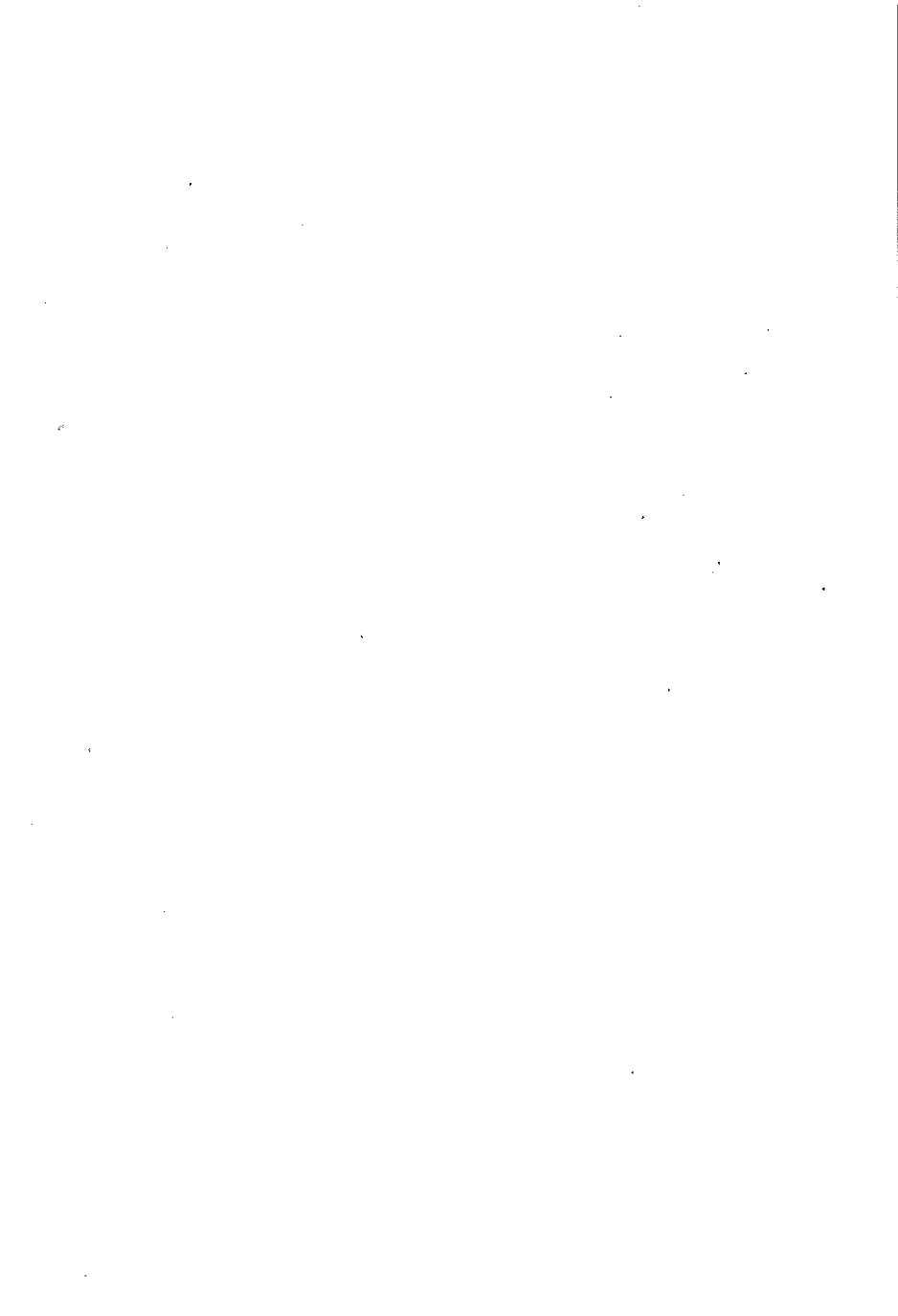
数年前にニュージーランドのある町で、婦人アグローの集会で話していた時のことを思い出します。話し終わった後、聖霊は私の注意を過去7年間子供を欲しがっていた一人の婦人に向けさせました。聖霊は私に彼女の子宮はよじれており、ほとんど逆の状態になっていると示して下さいました。

聖霊が私に下さった言葉を話すと、その若い婦人は前に走って来ました。彼女は聖霊が自分のことを話していると分かったからで

す。私が彼女のために祈り始めると、彼女は聖霊の力によって床に倒されました。見ていると、彼女のおなかの部分が上に下にと大きく動いているのが分かりました。彼女は少し痛みがあるようでしたが、神様の力が彼女の身体の中で働いているのがはっきりしていました。それから、彼女はジャンプして、「今いやされました。」と言いました。

彼女が神様の衣のすそに触れた時、神様は子宮を瞬間的に逆に戻して下さったのです。数ヶ月後に彼女は妊娠しました。1年前に私達はその同じ町を訪問すると、彼女は集会に子供を連れて来て証しをし、神様に栄光を帰しました。

いやしや他の分野においても、主の前に私達が謙遜であり、みことばを信じれば神様は奇跡を起こして下さるのです。



第 1 2 章

預 言

ある人には預言

(I コリント 12 : 10)

私達が心と思いを神様に開けば、預言の賜物を用いることができると信じています。私達が神様を信じ信頼するならば、神様は印象や思いや幻を与えて下さって、直接聞こえる声を語って下さり、そして、キリストの身体に属する他の人々が、本当に主の言葉を語っているかを吟味します。

私は全ての人が I コリントに従い、預言すべきだと信じています。

あなたがたは、みながかわるがわる預言できるのであって、すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができます。

(I コリント 14 : 31)

全ての聖霊に満たされた信者は預言の賜物を持つべきです。私は時々、集会中に会衆に起立してもらい、一度も預言をしたことのない人に静かに主を待ち望み、思いの中に聖書のみことばや言葉を神

様に語ってもらうようにと言います。私は普通、他の人々に神様の霊によって預言したい人に按手をするようにとも言います。それは、人々は賜物を使う練習が必要だからです。もしあなたが預言したければ、あなたを愛しているグループに加わるようにお勧めします。私はあなたの教会から離れなさいと言っているのではなくて、人々があなたを愛して、あなたの願っているこの霊の次元に導いて下さる祈禱会のようなところのことを話しているのです。

思いの中に言葉が来れば、それを話して下さい。(その言葉とは、徳を高め、励まし、慰める言葉です。)私はよく彼らが自分で聞くことができるように、聖書のみことばを引用するようにお願いします。集会中に自分の言葉を聞けば、自信と信仰を持てるようになります。

とにかく始めることが大切です。短い言葉かもしれませんが、信仰を持って踏み出し話して下さい。全部のメッセージをもらうまで待たないで下さい。あなたに語られたと信じたことを話し、そして止めて下さい。それ以上言うことはないかも知れませんが、又、他の人が預言の残りを加えるかも知れません。

自分の口で良い言葉話すことによってだけ、あなたの信仰が成長します。私達はすでにこのことは知っています。私が最初にクリスチャンになった時、私は非常に恥ずかしがりやで、他の人々の確信に満ちた預言に、強い印象を受けました。それから私は神様が望んでいるのは、ただ、子供のようになって神様を信頼することだということが、分かり始めました。ある日私はある兄弟がこのように神様を信頼しているのを知り、勇気づけられました。彼は集会で、他の人々に簡単な言葉でも話すように励ましていました。私は詩篇

の言葉を語りましたが、その祈禱会で自分の言った声を聞いた時、自信を持ち始めました。私の預言はその時から始まりました。人の前に立つと預言が流れ出るのはです。主はいつも言葉を与えたいと願っておられます。

あなたがたは、みながかわるがわる預言できるのであって、すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができます。

(1コリント14:31)

預言は又徳を高め、勧め、慰めるためのものです。

ところが預言する者は、徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるために、人に向かって話します。

(1コリント14:3)

それは徳を高め、キリストの身体なる教会を建て上げるためのものです。

指導者達は祈禱会を導く重要な責任があります。もし彼が預言の賜物をいただいているなら、注意深く主に聞かなければなりません。それは主が簡単な励ましの言葉を語りたいと願っておられるからです。

預言の賜物は預言者の働きとは異なっていることを覚えて下さい。預言者の働きは又別の働きです。(エペソ4:11)。私達は今、将来の出来事を預言するのではなく、キリストの身体を建て上げる預言の働きについて語っています。全ての賜物は徳を高めるのが目的なのです。

私達の祈禱会を始めた時、聖霊は私の心に妻を励ますようにと語られました。彼女は集会にいて、私は「バット、主があなたに言葉を与えて下さっていると信じているよ。」と言いました。（そこには預言がよくできる人々がいました。彼女は一度も預言したことがなかったのですが、彼女の中に植えつけられた神様の信仰にすっかり立って、語り始めました。）一語、一語しっかりと出て来ました。5000人の集会で、主が妻に預言の言葉を与え、語るにつれて会衆全体に響き渡ったのを見ました。家族揃って祈る時、何度も主は妻に励まし言葉を与えられます。これは夫婦の間のすばらしい伝達の方法です。ですが、どうぞあなたの奥さん、ご主人、家族に、このすばらしい賜物を働かせるように励まして下さい。これは神様があなたに確信を与えるすばらしい方法でもあります。

私の息子のパウロと娘のマリアもこの賜物をいただいています。簡単で、すばらしい神様の賜物です。神様があなたの心の中に与えて下さることを語ることによって、始めることができます。すでに話しましたように、それは詩篇の言葉か、他のみことばであるかも知れませんが語って下さい。行動に移すのを恐れないで下さい。あなた自身も恵まれる、愛に満ちた場所に行ってください。

私がどのように始めるかを示し、励まし続けて下さった主に感謝いたします。

しばしば、預言はあなた自身のためであることを見逃さないで下さい。預言の言葉はあなたの状況に関係しているかも知れません。あなたが言葉を語る時、神御自身があなたに語っているかも知れません。

聖霊は御自身を妨げはしません。もし言葉が異言か、解き明かし

か、預言で語られているならば、同時に、他の言葉によって妨げられるべきではありません。大きな集会では一人が語っている時、同時に遠くで語っている人の声が聞こえなくて、避けられないことがあります。普通、聖霊はかなり速く一人の声を選んで下さいます。

預言が語られた時、他の人々から、それが神様からのものであるとの証しがあるべきです。それが英語であろうと、解き明かしを伴った異言であろうと、聖霊は集会中に人々にそれが預言の言葉か聖霊からのものであるかを示して下さい。もし私達の言葉に証しする人がいなくて、神様の言葉と一致しなければ、受け入れられるべきではありません。

預言する者も、ふたりか三人が話し ほかの者はそれを吟味しなさい。

(1コリント14:29)

一方では、これは全て愛に根ざして行なわなければなりません。聖霊からの言葉ではなく、その人自身の思いから出た言葉だからと言っても、そのことばが害を与えず、しかも徳を高めることばであるならば、その人を大きな声で叱ることはありません。吟味（みことばと聖霊によって見分ける）は必ず愛に根ざして行なわなければなりません。しかし、語られた言葉が直接的で、人を強く非難し、束縛を与えるようであれば、強く注意されなければなりません。

もし誰かが話している時、預言の言葉や異言によるメッセージを語るようにとの、強い重荷が与えられても、彼らが終わり、その言葉を語る機会がくるのを待つべきです。ある善良な人が、「神様が溢れるばかりにメッセージを与えて下さるので、止めることができ

ないのです。」と話してくれました。聖霊は紳士的なお方です。彼は御自身を妨害しません。又、御自身を私達に強制されません。私達は聖霊に完全に支配されることを期待すべきです。他の人が話している時に何度も聖霊は私に、知識の言葉を与えて下さいました。私はその人が話しているのに、立ち上がって、すぐにその言葉を語るようなことはしません。適切な機会が与えられるまで、私は待たなければなりません。

聖霊が知識の言葉を私に下さっても、私が話すのに、その言葉を語る適切な機会を神様は与えて下さるのを、待たなければなりません。

預言者たちの霊は預言者たちに服従するものなのです。

(1コリント14:32)

私達は自制心を養わなければなりません。もし集会の指導者が聖霊に敏感であるなら、メッセージや言葉があることを感じ、適切な時にそれを語る機会を持つことでしょう。

預言の賜物がよく用いられる他の方法は、私達の心の目に聖霊はある状況の絵を与えて下さいます。それは滝や、夕日や、野原や、又他の状況であるでしょう。聖霊はそれについて語り始めます。心の中の絵を語るにつれて、聖霊は生き生きとしたメッセージを与えることができます。パットと私は預言を語る時、しばしば絵が与えられ、それを説明するにつれてその預言がしだいにはっきりとなるのを知りました。

預言を語る場合、私は前もってあまり言葉がありませんが、続けると聖霊は語るべき言葉を与えて下さいます。

第 13 章

霊を見分ける賜物

ある人には霊を見分ける力、

(I コリント 12 : 10)

霊を見分ける力は、人を攻撃したり、ある状況に関係している霊について、神様からの考え、思いの中に来る印象、幻、聖霊の直接の聞こえる声であると説明することが、最も適当でしょう。

霊を見分ける力はクリスチャンの働きの中でとても大切なことです。これは悪霊を追い出すことと関係しています。

イエス様は弟子達を遣わすにあたり、病人のために祈るようにと言われたとき、必ず悪霊を追い出すようにとも言われていることをご存知でしょうか。

神のみことばの権威に立ち、みことばを心から信じて、悪霊の力に立ち向かうことができるのは、全ての信じる私達のためであると私は確信しています。悪霊を追い出す働きが私達すべてに必要なとは言っていません。しかし、神のみことばに立ち、それが悪霊の

力に立ち向かうことができることを信じるのは、全ての信じる私達のためなのです。

私の家での祈祷会で、ある兄弟が私に、「兄弟、主はあなたに霊を見分ける賜物を与えておられますよ。」と言いました。私はこの兄弟がそのように励まして下さったことを主に感謝しています。その時から私は見分け始め、主からの賜物を実行し成長させました。人々のために祈ると、聖霊は私に彼らを支配している様々な悪鬼や悪霊を示して下さるようになり、このようにして私は、この分野で深い働きをし始めました。

しかし、バランスが必要です。私は決して忘れることができないことを学びました。それは、誰でも悪霊の問題を持っている人に、どのみことばを語っても — どのみことばでもです。 — 悪霊は正体を表し、例外なく、「それを聞きたくない。それを聞きたくない。 — それを聞きたくない。」と叫びます。

これは神のみことばのもう一つの權威の証明です。あなたが霊を見分け祈る時に、心の中に全き信仰を持っておかなければなりません。もしそうでないなら、悪霊の挑戦を受けることになります。

私は黙示録のみことばを引用するのが好きです。

それから、死とハデスとは火の池に投げ込まれた。これが第2の死である。

(黙示録 20 : 14)

私は悪霊に「そこがおまえの行くところだ。」と言います。

フィジーで牧師と私はある若い夫婦のために祈っていました。奥さんはすばらしく聖霊のバプテスマを受けました。しかし、ご主人は少し困難でした。聖霊は私に彼の中にはまだ、取り扱われなければならないヒンズー教の霊があることを示して下さいました。私達が祈り続けていると、私達が祈っていることを知っていた教会の人々は、歌を歌い始めました。しばらくして、彼らは、「主イエスのみ名により悪魔去り、」と歌っていました。彼らが喜んで歌っていると、この若い兄弟は前後に身体を振り始め、彼の口から同じ歌が流れてきました。私はその声は彼のではなく、霊の声であることが分かっていました。

「お前は一体何をしているのだ。」と私は聞きました。

「これは私の好きな歌だ。」と霊は答えました。

私達は悪霊と会話を少しでもすべきではないし、それを試みてもいけないのを知っています。しかし、その悪霊が私にこのように言いました。「これは私の好きな歌だ。主イエスのみ名により悪魔去り。」と。この悪霊はそれまで何度も、心から信じてないクリスチャンが、「主イエスのみ名により悪魔去り。」と歌っているのを聞いて、もはや恐れなくなり、むしろ好きな歌になってしまったという現実を知り、私は驚きました。私達はやっていることに対して、信仰を持たなければなりません。

その悪霊は自分を — フィジーの鮫の神 — と呼びましたが、この若者は主イエスのみ名によって完全に解放されました。

このことを話したのは、このような働きには適切に霊を見分ける

必要があることを強調するためです。ヤコブ書には悪魔さえ神様を信じているとあります。しかし、イエス・キリストを主として、救い主として受け入れることは、霊的な深みにおいては全く異なった次元にあるのです。完全にキリスト中心の信仰を働かせ、みことばに根ざすことは、霊を見分けるためには絶対に必要なことです。

霊を見分ける力は賜物であり、それによって聖霊は置かれた状況の中で、はっきりとあなたに落ち着かない気持ちを作り始めます。主を待ち望むと、その人の中に恐れや、拒絶、その他の霊の力が働いているのに気付きます。もちろんそこには、解放の働きが必要です。

次のみことばは、この霊を見分ける力の賜物を用いた一つの例です。

私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをして、主人たちに多くの利益を得させている者であった。彼女はパウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。」と叫び続けた。幾日もこんなことをするので、困りはたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストのみ名によって命じる。この女から出ていけ。」と言った。すると即座に、霊は出ていった。

(使徒の働き 16 : 16 ~ 18)

パウロはその女の中の、占いの霊を見分けました。多くの場合、病人の前に立つと、その病気は霊の力によって起こされていること

が分かります。すでに述べましたように、イエス様は悪霊を追い出さないうえ、病人のために祈るようにとは一度も弟子達に命じませんでした。霊を見分けることは、いやしの働きの重要な部分です。

しばしば、人をすでに赦したにもかかわらず、まだ苦い根を宿しており、その苦い根の霊は深い所に残っている時があります。その人は苦い根を悔い改めたでしょうが、苦い根の霊はまだ存在しており、肉体的な問題を起こします。聖霊がそれを示されると、私は苦い根に去るように命じます。そしてその人が悔い改めの心を持ち続けられれば、霊は去り、いやしは始まります。これは特に関節炎や、それと同様の症状において重要です。

私達が実際に解放の働きをする場合、悪霊の長を見分けることと、その人が潔められたかを見分けるのに霊を見分ける賜物は大切です。聖霊は霊を見分ける賜物を通して、その人に関係している色々な悪霊の名前を私達の思いの中に示して下さい、私達はその名前を言うと、それぞれ正体を現わし始めます。

約40才で、教会の柱としての働いていた男性が私の所に連れてこられました。彼は聖霊に満たされて、異言を語るクリスチャンで、祈禱会の指導者でした。彼は、「集会を導く度に、何かが私の声を支配し普通よりずっと高い音で歌うのです。」と言いました。

私が主を待ち望んでいると、聖霊は彼の母が彼を中絶しようとしたことを、示して下さいました。私は墮胎の霊に彼から去るように命じると、この男性は床に倒れ墮胎の霊が叫びながら彼から出て行き、彼は胎児のように身体を丸めました。彼がこの悪霊から解放されると、他の悪霊達も出て行き、彼は完全に潔められました。

時には、悪霊達はクリスチャンや組織をも圧迫します。シンガポールの聖公会のチュー主教のもとで、私は彼の働き人と共にセミナーを行っていました。討論の時に一人の敬虔な司祭が、大聖堂は悪霊の攻撃の的になることもあると信じている、と話しました。その前に、私が話している時、すでに私はこのことを感じていましたが、私が話し出す立場ではないと感じていました。

主教が私に話してくれた時、私は霊の目で死の使いが大聖堂の上、3メートルの所に留まっているのを見ました。私が主教にこれを話すと、「ビル、今あなたが言ったことを信じます。戦争の間、日本人が全てのシンガポールにいたオーストラリア人の看護婦を、この大聖堂のある土地に連れて来て、ここで全員殺してしまったのです。彼らの死体はこの地に埋められ、戦争の後に掘り出されたのです。」と言いました。

これを聞いて、私達はエリコのように外に出て、大聖堂の周りを行進することにしました。死体が埋められた所に来た時、神様の油注ぎを感じ、神様に信頼していると死の使いが大聖堂の尖塔を去り、神様の霊が下ってくるのを感じました。敵のくびきが砕かれた時、私達全員は強い油注ぎを感じ、続いて大きな喜びが湧いて来ました。

癌にかかっている人のために祈る時、彼らの中にしばしば恐れ
の霊を感じます。癌の霊を叱る前に、私は恐れ
の霊にその人から去るように命じます。そして彼ら
が自分でそれをイエスのみ名によって捨て去ると、聖霊は触れ、残りの癌の霊を扱うことができます。

要約すると、霊を見分ける賜物を働かせようとするれば、私達は心

と思いを神様の霊にささげなければなりません。そうすることによって神様は私達の霊の中に落ちつかない気持ちを起こさせ、思いの中に考えや印象を与え、私達が信仰を持ってそれを話し出す時、聖霊は確認して下さいます。

聖霊はしばしば、人が姦淫の罪やマスターベーションをしていることを私に示して下さいます。その時私はその人を横に連れて行き、そのことを話します。時々、最初はそれを認めませんが、しかしとがめを感じてそれを認めます。彼らがその罪を告白し捨て去り、私が姦淫の霊やマスターベーションの霊に去るように命じると、彼らは自由になります。

もしマスターベーションに身体を支配させれば、それは私達がコントロールできない他の汚れた悪癖や願いを持ち込みます。

私達はいつも霊の分野で働き、悪霊の力に対して戦っていることを、心に留めておかなければなりません。神様は私達に霊を見分ける賜物を下さり、それによって、私達は敵である悪魔の働きを見分け、捕らわれ人を解放することができます。もしあなたが愛しあっているグループに属し、彼らがこの賜物を用いているなら、あなたが神様の霊によって心や思いの中に、その状況に合った印象を与えてもらうなら、集会に出席している誰にでも、その人を苦しめている悪霊をあなたは見分けることができるでしょう。聖霊はあなたの思いの中にその霊の名前を示し、愛と正直な心でいるなら、悪霊に苦しんでいるその人はその通りだと認めるでしょう。もちろん、敏感さと知恵が必要です。

例え、私達がローマ6：13に従って身体を義の器としてささ

げ、神様に方向転換したとしても、それらの霊はまだ私達を圧迫し病気を起こし、私達を苦しめようとします。

ですから、聖霊はキリストの身体に霊を見分ける賜物と、解放の働きを与えて下さっているのです。それによって、私達は敵の矢を防ぎ打ち負かすことができます。

第 1 4 章

異 言

．．．．．ある人には異言、

(1コリント12:10)

公の集会での異言の賜物は非常にすばらしい賜物で、これもキリストの身体の徳を高めます。

パウロは、

私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいますが、それよりも、あなたがたが預言することを望みます。もし異言を話す者がその解き明かしをして教会の徳を高めるのでないなら、異言を語る者よりも、預言する者のほうがまっています。

(1コリント14:5)

ですから、異言でメッセージが語られた場合、解き明かしが伴うことが大切です。そうでないと、混乱が起きます。パウロは、

もし異言を話すのならば、ふたりか、多くても3人で順番に話すべきで、ひとは解き明かしをしなさい。もし解き明かしをする者がだれもいなければ、教会では黙っていないさい。自分だけで神に向かって話しなさい。

(1コリント14:27~28)

ですから、異言のメッセージは秩序良く語られ、そして一度に一回で、すくなくとも一人の解き明かす人が出席していることが大切です。聖書的に見て、どのような集会でも、2つか、3つの異言のメッセージで十分だと思います。

ここでも、異言を語る時、励ましが必要です。私達の普通の思いを横に置いて、イエス様に語っていただくように集中するなら、私達は霊の部分で異言を語らなければならない感じを持つようになります。多分、最初のいくつかの音節だけかも知れませんが、そうすることによって、神様はそれをメッセージとして油注ぎをして下さいます。そして集会が聖霊によって導かれているなら、解き明かしも出て来ます。解き明かしは本人からかも知れませんが、又他人からの場合もあります。

私が祈禱会を導き始めた時、聖霊は私に集会に出席している一人の人に歌を与えた、と語りました。私は聖霊が示されるままに、ある一人の婦人を励まし始めました。彼女が霊で歌い始めると、油注ぎが彼女に下りました。聖霊ははっきりと第2、第3の節をも与えて下さいました。ついに聖霊は私の姉を励まし、英語でその解き明かしをするようにとの信仰を私に与えて下さいました。姉はそれに従い、すばらしい調子と音節で解き明かしをし、その結果集会は非

常に祝福されました。この婦人はこのように励ましをいただいたために、彼女は他の集会でも霊の歌の奉仕をするようになり、いまでは彼女はこの分野ですばらしい働きをしています。

私は最近、救われて数週間しかない若いクリスチャン達に、霊の賜物について教えていました。私は数人に主が与えられた新しい言葉で語るようにと励ましました。いつも私は解き明かしを待ちます。最初の異言のメッセージはどちらかと言うと、つまりながら唯いくつかの音節だけでしたが、大胆さが加わるにつれて油注ぎがその人に下りました。ほとんど同時に、英語ですばらしい解き明かしがありました。解き明かしをした若者は、救われる前は深い罪の生活をしていましたが、油注ぎは疑いなく彼の上にあります。

その教会の牧師は信じられないといったように、頭を振りました。彼は聖霊に満たされていたにもかかわらず、他の人のように神様はそのように新しいクリスチャンを用いることを、なかなか信じることができませんでした。私達は賜物を働かせるのに多く学んだり、すばらしい長所を持っていなくてもよいのです。ただ、主を信じ与えて下さったことに忠実になればよいのです。

もし主があなたに霊によって働くようにと願っていると信じているならば、だれにも聞かれないように霊によって静かに祈るようにとお勧めします。すると機会がやがてやって来て、それが神様からのものだと分かりますから、異言でメッセージを語ればよいのです。ここでも、あなたがこの賜物を成長させるために助けてくれる小さな、愛に満たされたグループの中で始めるのがよいでしょう。最初はつまりながら異言でいくつかの音節だけかも知れませんが、

しかし、それが始まりです。この分野において大きな結果を見たいならば、霊の賜物を用いるように励ますことは絶対に必要です。回りの人々の愛と配慮が、信仰と愛の花を美しく咲かせます。

前述の聖書のみことばによって、異言の賜物は本来は、公の集会のためであると信じています。すなわち、神様は異言で、預言の言葉を語るように印象づけられます。この状況では、ほとんどの人はメッセージを語ると神様の油注ぎを感じます。それは公の場での表現です。異言でメッセージが語られると、もちろん、解き明かしがなければなりません。私達は1つの集会で、3つのメッセージだけだと教えられました。どこまで律法的になるかは別として、パウロはそのように1コリント14章で言っているようです。（そうでないと、一晩中異言でメッセージを語るようになりますから。）それに、それぞれのメッセージには解き明かしが伴うべきだとあります。そうでないと、混乱が起こります。解き明かしをする人はメッセージを語った本人からの場合もあれば、他の人からの場合もあります。ここでも神様を待ち、信頼することが大切です。もし神様があなたに語っていると信じれば、その導きに従って語って下さい。

時には人々はこの賜物を用いると、ただ、いくつかの音節を語るだけで、止めてしまいます。そのような人は他の人々から続けるようにと励まされるべきで、そうすることで、神様の油注ぎが下ります。もしメッセージが同じ音節で繰り返されているなら、その人に神様が語って下さっている他の言葉に進むようにと、やさしく、はっきりと勧めなければなりません。

第 15 章

異言の解き明かし

・ある人には異言を解き明かす力が与えられています。

(1 コリント 12 : 10)

異言の解き明かしは、集会中ですでに語られたメッセージの解き明かしのために、私達の心と思いの中に来る印象、幻、聖霊の直接聞こえる声であると私は信じています。

その賜物はキリストの身体に属している人々の励ましによって用いられます。異言のメッセージが語られた後、解き明かしのためにしばらくの時間が必要です。

ここに集会の指導者には、賢く解き明かしを扱う大きな責任があります。しばしば神様は集会に出席している人に解き明かしを与えられていますが、その人がそれを語るためには少しのきっかけが必要です。

異言の解き明かしは、必ずしもメッセージの通訳である必要は

ありません。時々、人々はこの点を誤解します。語られたメッセージの文字通りの正確な通訳でないといけなないと考えています。しかし、それは通訳ではなく 解き明かし なのです。私は霊の賜物を信じない人々が、彼らが理解できる言語での異言のメッセージを最初に聞き、それから完全な通訳の解き明かしを聞いて、非常に驚いたのを何度も見たことがあります。神様は制限されていませんし、聖霊は思いのままに御自身の栄光のために働きます。聖霊はあなたや他の人を通して完全な通訳を与えられるかも知れません、又その真理の解き明かしであるかも知れません。私はある若いクリスチャンが大胆になって、すばらしい解き明かしをしたのを聞きました。神様は大胆な人を求めています。私達が大胆さと愛で働き、忠実で従順であるなら、神様は油注ぎを与えて下さいます。

異言を語ることは、知性を通り過ぎて聖霊の助けによって、私達の霊が神様と語ることなのです。私はよく異言を語った人々にしばらく主を待ち望み、思いに来る英語の言葉で語るようにと励まします。多くの場合、神様はすばらしい解き明かしを与えて下さいます。

預言と解き明かしはどのようなかたちでも、自分の言語で語ることができます。例えば私の言葉、古い英語で「主はかくのごとく言いたもう。」と言う必要はなく、日常会話の英語で言うこともできます。大きな集会で神様が油注ぎをした人によって預言や解き明かしのすばらしいメッセージが大きな声で語られることがあります。これらを聞いて、ある人々は弱気になり、この賜物をいただくにはあまりにも自分は弱い器であると感じます。私達は公の集会で神様をこのようなかたちで制限すべきではありません。神様は2人や3

人のような小さな集会で、静かな小さな声で語ることができるのと同様に、数え切れないほどの大きな集会でも静かに語ることができます。

私達は互いに愛に根ざして、どのクリスチャンを通してでも、神様は近くにいる人々にすばらしい信仰と希望のメッセージを語りたいと、願っていることを知らなければなりません。実際、そのような人はしばしばいわゆる“専門家”の預言者よりも、神様が言っていることに霊的に焦点が合っているかも知れません。

預言の賜物の章ですでに記しましたが、この異言の解き明かしの働きに入るようにと人々を励ますことは大切です。ここでも、私達はまず始め、神様に信頼することが大切です。そうするように励まされることによって、聖霊は私達を通して語られ、すでに異言で語られたメッセージの解き明かしを与えて下さいます。この異言のメッセージと解き明かしはしばしば預言となり、語っている本人か、もしくは、聞いている人々全員に対して語られています。

神様は御自身の民に語りたいと願っているのです。私達に必要なことは神様にそうする機会をお与えすることなのです。

第 16 章

集会を指導する

集会の指導者は聖霊に敏感になって働くことが非常に大切です。私達は神様と神のみ声に非常に注意深くなければなりません。

それでしばしば神様を賛美している時に靈的にとても高い状態に達し、神様がメッセージを告げられたかったのに、聖霊を悲しませているのを私は感じたことがあります。メッセージを待つ代わりに指導者は賛美や礼拝の歌を歌い始め、機会が失われてしまいました。適切な時に沈黙することがどうして悪いのでしょうか。ある集会の指導者は、沈黙の時は間違っていると感じています。多分そのような沈黙の時を恐れているのでしょう。

又、ある指導者は集会で聖霊が働くのを恐れているようにも見えます。多分、ある人々が間違った預言の言葉を語るかもしれないし、聖霊の油注ぎのない言葉を語ると感じているのです。

私はこのような状況にしばしば出会いました。私達は預言の言葉や解き明かしは“魂”の分野、すなわち霊の分野でなく思いの分野から出ていることを、覚えていなければなりません。それは完全に

すばらしい、有益な言葉かも知れませんが、聖霊の靈感によるのではなく、完全に思いの中から出ているかも知れません。私はそのような言葉を止めたりはしません。なぜなら、純粋に聖霊によって働こうと願っている若いクリスチャンの信仰を、私達は損なうことがあるからです。預言の言葉や解き明かしが神様の言葉と矛盾する時だけ、その人の話しを止めさせます。1コリント14：3によると、もし徳を高めず、励まし慰めがなく、みことばによってその人を高めず、責める強い言葉であるなら、私の霊はそれは違うと証します。

ところが預言する者は、徳を高め、勤めをなし、慰めを与えるために、人に向かって話します。

(1コリント14：3)

この14年間に、公の集会で私は多くのメッセージを聞きましたが、その中で只の2回だけ止めさせたことがありました。

ある状況では教会の指導者は、いわゆる“専門家の預言者”だけにしか許可しない時があります。私が“専門家”と言ったのは、決して軽視しているわけではありません。実際みんなは1コリント12章に記されている預言の賜物によって預言するこれらの人々に注目しますが、他の人々には注目しないのです。

ここで預言の働きと預言者の務めが混同されていると思います。神様の恵みで、ある教会は預言者を認めています。預言の働きはすべての人に与えられており、私達は全員この働きに加わることができるのです。

あなたがたは、みながかわるがわる預言できるのであって、すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができるのです。

(1コリント14:31)

私達は学び、勧めを受ける(慰めるを受ける)ことができると記されています。

ある教会で私は聖霊の賜物について語り、この賜物で働くようにと励ましました。聖霊は私に、10人の人がその日賜物を働かしたいと願っていることを語って下さいましたので、私は、以前に預言の言葉や異言のメッセージを語った人は話さないようにと頼みました。最初のメッセージには油注ぎがありました。そして私は霊の中でその人は以前には一度も語ったことがないと感じました。第2番目のメッセージもすばらしいものでした。その人も初めてでした。しかし、第3番目のメッセージが語られた時、私はすぐにその人はしばしばその教会でメッセージを語っていると感じました。

その婦人が終わった後に、彼女に以前預言したことがあるかを聞くと、彼女は「はい、あります。」と答えました。それで、私はもう一度みんなに、以前に預言した人は話さないようにとすでに言ったことを話しました。

第4番目のメッセージは初めての人でしたが、第5番目の人は“専門家の預言者”でした。

私が再要請しても、そういうことが、続けて起こりました。ある人々は集会の指導者に示された神の導きに反しても、言葉を語らな

ければならないという大きな圧迫感（内からと、友人から）を感じています。預言を語るのに慣れていない人は、自分では語らず、他の人に語ってもらうようにと言われても、預言の言葉を語るのを押さえませんでした。主が私に示して下さい、又初めての人を励ましたいと神様が願っていた10人に達するまで、少なくとも17人が語りました。

すでに言いましたように、聖霊は一度に一人の人を通して集会を導くと私は信じています。その人は説教しているか、預言しているか、礼拝を導いているかも知れません。どのような場合にしても、その人はその特別な時に神様が何を言っているかに、敏感にならなければなりません。主は私の妻バットが預言の賜物の中に入るようにと私を励まして下さったことを良く覚えています。ある夜、神様は私にはっきりとバットに預言の賜物を与えられたと語られました。彼女はためらいながら語りましたが、聖霊はもっとあると語りました。全部のメッセージが終わるまで、私は彼女にもっと語るように励ましました。

今日でも時々、聖霊は私に預言のメッセージの全部が語られていないことを示され、私はその人にさらに語るようにと励まします。

私達の祈祷会を続けるうちに、人数が増え、居間やベランダ、そして地下室まで使わなければなりません。 (礼拝の中心は居間で他の部屋にはインターホンを用意付けました。) もし集会中聖霊が私に、地下室にいる人が異言のメッセージがあると示された時、どのようにしようかと私が心配したことを想像して見て下さい。

私は誰が地下室にいるか知りませんでした。ましてや彼らが信者であるかも知りませんでした。しかし、信仰によって働き、私は地下室から異言のメッセージを語るようにと言うと、インターホンを通してとても美しく流れて来ました。それから聖霊は私にその解き明かしは居間からであると示され、そのように言う、居間からすばらしい解き明かしの言葉が語られました。

はっきりと聖霊が働いていることが、集會にすばらしい信仰の霊を創造し、指導者の私だけでなく出席していた全ての人に靈感を与えられ、神様の霊が集會中人々に力強く触れ、祝福することができました。

私が話していると時々、聖霊はある病気の人をいやしていると語って下さいます。その時に止めて主が語って下さったことを伝えることがあります。その時に十中八九、人々はいやされたり、又、神様の力が彼らの上にあることを感じて立ち上がります。

パウロは、説得力のある知恵の言葉によって行われたものではなく、「神様の証しを宣言する。」と言いました。彼の説教と説得力は人間の知恵の言葉によるのではなく、霊と力の現れであったのです。

そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵の言葉によって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした。

(1コリント2:4)

もし私達が心を開いているなら、聖霊はいつでも御自身の愛と力

を現したいと願っているのです。

教会で数少ない人々が霊的に高められて預言するだけならば、他の人々は失望するでしょう。ですからパウロは私達は皆、預言の働きをいただき、預言すべきであると言っているのです。もし全員が預言するように動機づけられるならば、神様は力強く集会中に語る事ができると信じています。

ですからもしあなたが、指導者の立場であれば、聖霊があなたを通して集会を導いておられることを覚えていて下さい。そして自分の力で努力する必要はありません。ただ、集会を神様に導いてもらい、数人の人に語ってもらいなさい。そうすれば、集会にすばらしい油注ぎが下るのが分かるでしょう。信仰の霊が燃え上がり、あなたの目の前で、いやしや解放が起こります。

第 17 章

グループの中で学ぶ

この本の中に記している事柄、特に賜物を用いることについて私が理解をしていることを教えた後に、私は聞いている方々に、5人か6人の小さなグループになるように勧めます。それから私は預言し始めるようにと励まします。まず最初に1人ずつ順番に何かを話すように勧めます。その内容は何か神様に栄光を掃すものであり、例えば、「神様は私を愛している。」とか、「神様はここにいます。」とか、それと似たようなことです。次に、もう1度話すように勧め、この度は、彼らが神様の代わりに話していることを心の中で描きながら話すようにと勧めます。「私の民よ、私はあなたがたと共にいる。」とか「私の民よ、私はあなたを愛している。」のような、グループに対して話すように言います。

この簡単な練習をすることによって、預言の賜物で働くようにと他の人々を励ますことができます。信仰を持って踏み出し、思いや幻や印象を与えてもらい、又聖霊のみ声を語ってもらうならば、すぐに神様の油注ぎが下り、そのグループに神様が預言の賜物を注いで下さいます。そして非常に早く若いクリスチャンは確信を持ち、この賜物で働くようになります。

次に、私は数人の人々に異言で話すように勧めます。彼らは解き明かしを待っている間このようにすべきです。ここでも私達は信仰によって働いており、他のクリスチャンに神様の中に働くようにと励ましているのです。この簡単な練習をすることによって、聖霊の油注ぎがすみやかに下り、人々が確信を持つにつれて、異言で話し、解き明かしがすみやかに続きます。もし私達が、グループの中で思いや印象や聞こえる声や幻を信じるようにと励ますならば、神様は解き明かしをしている人を通して語ることができ、すばらしい祝福がグループに下ります。

ここまでくると他の賜物、例えば、知識の言葉などに移るのは簡単になります。ここでも私は人々に、進んでグループの中のある人について神様からの思いや印象や聞こえる声や幻などをいただくようにと励まします。ある特定の人についてではなく、グループの中の誰についても、思いや印象や必要について聖霊に示していただくことです。人々が神様に心を開くにつれて、信じられないようなすばらしいことが起こり始め、すぐに与えられた思いや印象が正しなかったことが分かります。時には聖霊の聞こえる声であり、又グループのある人について神様が語って下さった幻でもあります。知識の言葉が正確であることを人々が発見することによって、信仰がはやく高められることが分かりました。同様に、思いや印象や幻や聖霊の声を聞くことによって、他の人を攻撃している悪霊や悪の力を見分け、その人々に伝えることにより、霊を見分ける賜物に入るようにと励ますのは、簡単なことです。これが確認されその人が祈ってもらうと、解放が起こります。

私はそれからいやしの賜物を信じるように励まします。実際、あ

る知識の言葉は、グループの中のいやしが必要な人に関係しており、その人が前に来て神様の油注ぎを願い、神様の愛に根ざして祈るならいやしは起こります。

私達が神様の香りを持っているという事実のもっと詳しいことは、IIコリントのパウロの手紙に記されています。

私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、
神の前にかくわしいキリストの香りなのです。

(IIコリント2:15)

私達がこの世に生活していても聖霊の香りが私達の中にあるのです。この世はいつも真の信者の周囲に神様の臨在を感じます。

このようにして、私達は本当に油注ぎをいただいているかが分かります。アロンが彼自身の身体で油注ぎを感じたと同様に、私達も身体で神様の臨在を感じることができます。ですからヨハネは、私達には聖霊の油注ぎがあると強調することができたのです。私達がイエス・キリストについて証したり、説教したり、病人のために祈ったり、又主の働きをしている時はいつでもその油注ぎが下ることを期待すべきです。聖霊に心を開くと、聖霊は私達に油注ぎを与え、私達を通して御自身を現すことができ、私達は身体で神様の臨在を感じることができます。私達は見えるものによらず、信仰によって歩んでいるというのは本当ですが、しかし信仰によって歩むならば油注ぎを、感じることを期待すべきなのです。

第 18 章

最後の実際的な洞察

- 1 疲れているときには奉仕をしないこと。もちろん、時には避けられないこともあります。疲れている時は攻撃されやすく、主の声を聞くのが難しくなるということが分かりました。
- 2 謙遜でありなさい。悪魔はあなたに、他の人よりもあなたのほうがすばらしいと思わせたいのです。あなたを高慢にさせたいのです。この高慢こそ彼が墮落した原因だったのです。あなたが奉仕をしているその人は、あなたが謙遜かどうかを霊においてすぐに分かります。
- 3 いつでも愛に根ざして行動して下さい。もしあなたが神様の愛で行動しているなら、聖霊はあなたを通して働くことができ、あなたが奉仕しているその人は、あなたの働きに確信を持つでしょう。その人はあなたが裁いていないことを知り、あなたを通して神様が自分になしていることを受け入れることができます。

- 4 あなたに対する神様の呼びかけにいつも心を開いて下さい。神様はしばしば御自身のメッセージを語るのに、一番弱い器に油を注いで用いる時があります。

- 5 神様は私達を立て上げ、靈感を与え、御自身の御国を拡張するためにキリストの身体なる教会に賜物を与えたいと願っておられることを覚えて下さい。聖霊の賜物を働かせるのを決して恐れてはいけません。なぜなら、これは聖霊が御自身の臨在を現すことができる基本的な方法だからです。その時私達の中に不信者がやって来たら、「これは本当に神様からのものです。」と言うことができるでしょう。

ビル・サブリツキー氏の他の文書、カセットテープ、ビデオテープに関するお問い合わせは、信仰テープまでどうぞ。

〒630-02 奈良県生駒市郵便局私書箱27号
信仰テープ Tel 07437-4-4158

RECEIVING THE GIFTS OF THE HOLY SPIRIT
聖霊の賜物を受ける

初版発行 1989年12月11日 定価 800円（消費税別）

© 1989 FAITH MINISTRIES

著者 ビル・サブリツキー Bill Subritzky

訳者 田園 盛一 Seiichi Tazono
信仰ミニストリーズ翻訳委員会

発行所 信仰ミニストリーズ Faith Ministries
〒630-02 奈良県生駒市郵便局私書箱27号
Tel 07437-4-4158 Fax 07437-4-6610

印刷所 Koo Printing Pte Ltd, Singapore.

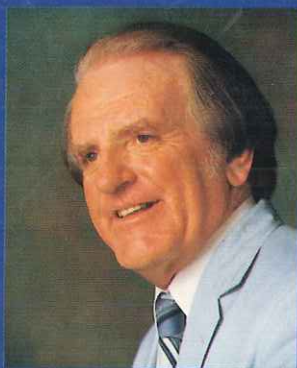
落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

ISBN 4 915793 00 1

聖霊の賜物を受ける

本書において著者はどのようにしてあなたが聖霊の賜物を受けた信者として効果的に働くことができるかを、正直に明確にまた聖書的正確さを持って説明しています。聖書的指示と霊的な働きのすき間をカバーしています。

- ★ どのようにしてすべてのクリスチャンは賜物を働かせるための資格を得ることができるか？
- ★ 聖霊の現れとしての賜物を受ける
- ★ 賜物を用いる実践の重要性
- ★ 霊的な洞察のための聖書的道具を用いる
- ★ 愛、最高の霊的表現形式



ビル・サブリツキー

ビル・サブリツキー氏は長年の間大きな法律事務所の所長であり、ニュージーランドで最大の住宅建設会社の重役の一人でした。

彼は聖公会において信徒にすべての立場を公開する働きをしてきました。

彼はまた「打ち破られた悪霊達」という本の著者でもあります。

ISBN 4 915793 00 1

定価 800円